

# 執筆者一覧

監修 高尾一彦 藪田 貫

高尾一彦	第1章
曽根ひろみ	第2章第1節1, 2の一部, 3 第2章第3節 第3章第1節1の一部 第3章第3節1
藪田 貫	第2章第1節2の一部 第3章第1節1の一部, 2, 3, 4 第3章第3節2 第4章第1節 第4章第3節 第4章第7節4 第5章第2節1
中部よし子	第2章第2節 第3章第2節 第4章第2節 第5章第1節
李 東彦	第2章第4節1 第3章第4節1, 2, 3 第4章第4節1 第5章第2節2 第5章第3節1
柚木 学	第2章第4節3 第2章第5節3 第3章第5節 第3章第6節1, 2 第4章第5節 第4章第6節 第5章第4節 第5章第5節1, 2
桑田 優	第2章第4節4 第2章第5節1の一部, 2 第3章第4節4 第3章第6節3, 4 第3章第7節4 第4章第4節2, 3 第5章第3節2, 3 第5章第6節2
木南 弘	第2章第4節2 第2章第5節1の一部 第3章第7節1, 2, 3, 5 第4章第4節4 第4章第7節1, 2, 3 第5章第5節3 第5章第6節1, 3
青山 忠正	第5章第7節

## 〔編集協力者〕

藍那自治会 明石市立図書館 明石堀割土地改良区 秋宗秀夫 足利国慶 尼崎  
市立地域研究史料館 荒尾親成 粟崎八幡神社 伊川谷堀割土地改良区 生島藤  
根子 生島みよ 池田淳司 生駒 征 石井謙治 稲生確治 井上好太郎 井上  
善右衛門 井上 勉 岩井鶴雄 上田幸一 植田清津子 魚崎財産区議会 内田  
正一 江差町教育委員会 榎本正道 大井真治 大岡泰之 大垣隆純 大阪市立  
博物館 大阪大学附属図書館 大阪府立中之島図書館 大川信正 大西清尊 岡  
方協議会 岡本俊二 岡山大学附属図書館 奥畑協議会 奥平野財産区管理会  
柿衛文庫 風 早 章 榎ヶ瀬忠男 上唐櫃林産農業協同組合 関西学院大学図書  
館 菊正宗酒造(株) 北別府自治会 君塚 進 日下部自治会 神戸海洋博物館  
神戸商船大学海事資料館 神戸市立中央図書館 神戸市立博物館 神戸大学人文  
社会系図書館 神戸大学文学部古文書室 神戸深江生活文化資料館 国文学研究  
資料館史料館 国立公文書館 国立国会図書館 坂井淳二 坂本 亨 先山直義  
芝切義寛 柴田和夫 芝 敏 雄 下田 勉 石 峯 寺 白川自治会 (株)神港ジャ  
ーナル 前開自治会 禅 昌 寺 善 福 寺 園喜太夫 多井畑厄除八幡宮 太福  
寺 高田保郎 武井報效会 竹中大工道具館 龍野市立図書館 田 中 滋 谷 勘  
兵衛 榎井千冬 天理大学附属天理図書館 東京都公文書館 道場自治会 友国  
彦左衛門 中井三善 長田神社 中西一郎 中西英雄 中西政太郎 西代協議会  
西 出 宣 西宮市立郷土資料館 西本信一 則光賢治郎 白鶴酒造(株) 箱木真  
人 函館市史編さん所 函館市立図書館 八多町中自治会 檜木次郎 兵庫県史  
編集室 兵庫県立図書館 兵庫県立歴史博物館 福 祥 寺 藤田隆治 藤田幸男  
淵上源治 細井忠夫 前北英男 松尾仁兵衛 松本満夫 敏馬神社 宮下正司  
宗国卓二 村上正弥 安田正造 山口県文書館 山田恒雄 山田民俗文化保存会  
袖 垣 実 横浜開港資料館 余田慈石 鷺尾治兵衛 鷺尾寧一

## 〔図版作成〕

森図房 河北印刷(株)

写真・図（付図）・表（附表）一覧

口絵写真

- 1 海路図屏風〈神戸商船大学海事資料館蔵〉
- 2 延享3年奉納船絵馬〈敏馬神社提供〉
- 3 兵庫津に上陸する朝鮮使節 宝暦14年〈岡本俊二蔵〉
- 4 絞油水車器械の図〈大利信正蔵〉
- 5 高田屋嘉兵衛書状(部分)〈神戸市立博物館蔵〉
- 6 柴田剛中「日載」慶応3年12月〈君塚進提供〉
- 7 道場川原村絵図〈神戸市立博物館蔵〉
- 8 農村歌舞伎舞台 北僧尾巖島神社長床

写 真

〔第1章〕

- 扉写真 旧花隅城趾碑
- 写真 1 織田信長朱印状案（禅昌寺領安堵）〈禅昌寺蔵〉…………… 3
- 写真 2 有馬国秀安堵状写（阿弥陀堂額）〈善福寺蔵〉…………… 7
- 写真 3 花熊城攻囲図（部分）〈岡山大学附属図書館蔵 池田家文庫〉…………… 9

- 写真 4 花熊落城記（部分）〈安田正造蔵〉……………11
- 写真 5 羽柴秀吉判物（道場河原村百姓還住）〈道場自治会蔵〉……………13
- 写真 6 羽柴秀吉判物（正直屋安右衛門宛）〈榎井千冬蔵〉……………15
- 写真 7 兵庫城跡碑……………17
- 写真 8 豊臣秀吉有馬茶会記写〈善福寺蔵〉……………20
- 写真 9 兵庫町諸座公事銭算用状（部分）〈榎井千冬蔵〉……………22
- 写真10 淡河城趾碑……………24
- 写真11 有馬瑞宝寺公園〈神港ジャーナル社提供〉……………26
- 写真12 豊臣秀吉地子免許状（表紙）御屋敷成り65軒の地子免除〈余田慈石蔵〉……………28
- 写真13 中川秀政書状〈榎井千冬蔵〉……………30
- 写真14 文禄3年藍那村検地帳〈藍那自治会蔵〉……………32
- 写真15 文禄3年藍那村検地帳（部分）〈藍那自治会蔵〉……………35
- 写真16 藍那村（左端）付近（慶長撰津国絵図）〈西宮市立郷土資料館蔵〉……………37

写真17 藍那風景……………	39	津絵図)〈樺井千冬藏〉……………	110
写真18 須磨寺(『撰津名所図 会』)〈神戸市立中央図書 館蔵〉……………	41	写真29 兵庫番〈金沢康隆『江 戸結髪史』〉……………	115
写真19 浜本陣絵屋のあった出 在家町図(部分)〈安田正 造蔵〉……………	44	写真30 延宝8年『福原鬘鏡』 (部分)〈神戸市立中央図 書館蔵〉……………	116
写真20 長田村の少衛門・勘兵 衛連署証文〈長田神社蔵〉……………	47	写真31 寛永21年板宿村「吉利 支丹誓紙帳」(表紙)〈秋 宗秀夫蔵〉……………	130
〔第2章〕		写真32 寺号下付願いにつき約 定書(部分)〈大岡泰之 蔵〉……………	136
扉写真 兵庫津図(『福原鬘鏡』 〈神戸市立中央図書館蔵〉)		写真33 林崎堀割渠記碑……………	143
写真21 慶長撰津国絵図(部分) 〈西宮市立郷土資料館蔵〉……………	51	写真34 慶長10年中一里山裁許 絵図写……………	144
写真22 慶長播磨国絵図(部分) 〈天理大学附属天理図書 館蔵〉……………	53	写真35 八部・菟原郡境碑……………	146
写真23 元禄撰津国絵図(部分) 〈国立公文書館蔵〉……………	59	写真36 多井畑村山論訴状写 (部分)〈多井畑厄除八幡 宮蔵〉……………	150
写真24 慶長5年湯山地位子請取 証(片桐且元・小出秀政) 〈余田慈石蔵〉……………	62	写真37 四艘張網漁(『日本山海 名物図会』)〈大阪大学附 属図書館蔵〉……………	160
写真25 寛永20年西小部村免状 (代官 五味金右衛門) 〈内田正一蔵〉……………	64	写真38 撰・播磨川の杭(『播磨 名所巡覧図会』)〈神戸市 立中央図書館蔵〉……………	164
写真26 兵庫来迎寺(築島寺) (『撰津名所図会』)〈神戸 市立中央図書館蔵〉……………	93	写真39 「諸白」の箱を持つ女性 (『撰津名所図会』)〈神戸 市立中央図書館蔵〉……………	169
写真27 兵庫津湊口門(若林秀 岳画)〈神戸市立中央図書 館蔵〉……………	97	写真40 酒造株札(新在家村長 右衛門)〈柴田和夫蔵〉……………	173
写真28 兵庫津浜辺(元禄兵庫		写真41 川口忠兵衛酒仕切状 (山路十兵衛宛)〈関西学 院大学図書館蔵〉……………	179

写真42 石屋(『福原鬘鏡』)〈神戸 市立中央図書館蔵〉…………… 181	博物館提供) …………… 226
写真43 楠木正成墓碑…………… 181	写真58 灘浜遠景(『撰津名所図 会』)〈神戸市立中央図書 館蔵〉…………… 228
写真44 有馬楊枝売り(『有馬名 所鑑』)〈神戸市立中央図 書館蔵〉…………… 183	〔第3章〕
写真45 楊梅…………… 185	扉写真 天明4年奉納船絵馬 〈敏馬神社提供〉
写真46 有馬籠(『日本山海名物 図会』)〈大阪大学附属図 書館蔵〉…………… 187	写真59 八部郡山田8ヵ村連印 定免請願書(部分)〈山田 恒雄蔵〉…………… 237
写真47 敦盛塚前風景(『播磨名 所巡覧図会』)〈神戸市立 中央図書館蔵〉…………… 197	写真60 徳川吉宗朱印状(部分) 〈禪昌寺蔵〉…………… 242
写真48 奥畑村妙法寺村道争論 济口申渡覚(部分)〈奥畑 協議会蔵〉…………… 200	写真61 有馬社碑…………… 244
写真49 有馬豊氏書状案〈先山 直義蔵〉…………… 202	写真62 河内国魂社碑…………… 245
写真50 有馬温泉一の湯・二の 湯〈『有馬温泉史料』上〉………… 205	写真63 明和6年神戸村「諸事 御用留帳」(表紙)〈神戸 市立中央図書館蔵〉………… 249
写真51 『有馬私雨』(部分) 〈神戸市立中央図書館蔵〉………… 211	写真64 代官検見の先触れ(神 戸村「諸事御用留帳」 〈神戸市立中央図書館蔵〉………… 251
写真52 有馬温泉全景図(原図 『撰津国有馬山勝景図』) 〈神戸市立中央図書館蔵〉………… 213	写真65 明和6年御影村明細帳 (表紙)〈神戸大学文学部 古文書室提供〉…………… 253
写真53 池田輝政禁制〈村上正 弥蔵〉…………… 215	写真66 植崎九八郎封事(部分) 〈国立公文書館蔵〉…………… 256
写真54 淡河宿本陣跡碑…………… 217	写真67 魚崎村「亥ノ歳船数五 人組御改帳」(部分)〈魚 崎財産区蔵〉…………… 263
写真55 「船法御定並諸方聞書」 (部分)〈園 喜太夫蔵〉………… 224	写真68 天明2年藍那村「江戸 状之ひかゑ」(表紙)〈藍 那自治会蔵〉…………… 270
写真56 菱垣廻船(「油問屋旧 記」)〈東京都公文書館蔵〉………… 225	写真69 享保5年藍那村「宗門
写真57 樽廻船模型〈神戸海洋	

御改帳」(表紙)〈藍那自治会蔵〉……………	273	中央図書館蔵〉……………	326
写真70 旗本宮崎氏為替金請取 覚〈藍那自治会蔵〉……………	275	写真83 唐箕〈兵庫県立歴史博 物館提供〉……………	327
写真71 兵庫津細見図〈神戸市 立博物館蔵〉……………	281	写真84 からすき(『農具便利 論』)〈神戸大学人文社会 系図書館蔵〉……………	328
写真72 今和田新田位置図(兵 庫津絵図より)〈神戸市立 博物館蔵〉……………	288	写真85 「水車新田古米手続書」 (表紙)〈大利信正蔵〉……………	339
写真73 諸間屋株の記事(『万控 之留帳』)〈安田正造蔵〉……………	298	写真86 水車利用の絞油業(『製 油録』)〈大阪府立中之島 図書館蔵〉……………	341
写真74 干鯛仲買寄進の灯籠 (菜仙寺)……………	299	写真87 灘地方の油しめ器(『製 油録』)〈大阪府立中之島 図書館蔵〉……………	341
写真75 北国船囲い場(兵庫津 絵図部分)〈神戸市立博物 館蔵〉……………	301	写真88 酒造 洗米図(『日本山 海名産図会』)〈大阪大学 附属図書館蔵〉……………	348
写真76 施行も行われた七宮神 社(若林秀岳画)〈神戸市 立中央図書館蔵〉……………	303	写真89 酒蔵風景……………	356
写真77 板宿村絵図(部分)〈武 井報效会蔵〉……………	308	写真90 酒造 麴醸図(『日本山 海名産図会』)〈大阪大学 附属図書館蔵〉……………	368
写真78 白川村の村社大歳神社……………	311	写真91 船頭次郎兵衛難船置手 形(部分)〈魚崎財産区蔵〉…	371
写真79 宝暦10年菟原郡5ヵ村 より菜種売方につき伺控 (部分)〈芝切義寛蔵〉……………	313	写真92 岩見国浜田外浦楫ヶ瀬 家「客船帳」(部分)〈楯 ヶ瀬忠男蔵〉……………	375
写真80 板宿村「菜種作高書上 帳」(表紙)〈武井報效会 蔵〉……………	316	写真93 保久良神社常夜灯籠……………	381
写真81 原野村栗花落の井付近 (『撰津名所図会』)〈神戸 市立中央図書館蔵〉……………	322	写真94 魚崎村難船浦手形(部 分)〈魚崎財産区蔵〉……………	395
写真82 野中清水付近(『播磨名 所巡覧図会』)〈神戸市立		写真95 兵庫渡海船(『和漢船用 集』)〈神戸市立博物館〉……………	401
		写真96 御影石の運搬(『日本山 海名産図会』)〈大阪大学	

附属図書館蔵) …………… 402	控(部分)〈神戸大学文学 部古文書室提供〉…………… 457
写真97 オランダ船長崎入津図 (部分)〈神戸市立博物館 蔵〉…………… 408	写真109 神戸村付近生田桜馬場 (『摂津名所図会』)〈神戸 市立中央図書館蔵〉…………… 459
写真98 朝鮮人来朝図(江戸 部分)〈神戸市立博物 館蔵〉…………… 409	写真110 天保14年魚崎村「高反 別小前帳」(表紙)〈松尾 仁兵衛蔵〉…………… 463
写真99 神戸村松屋へ届いた書 状〈生島藤根子蔵〉…………… 426	写真111 明石藩札(左)・尼崎藩 札(右)〈神戸市立博物 館蔵・安田正造蔵〉…………… 469
写真100 明治期の有馬温泉〈神 戸市立博物館蔵〉…………… 432	写真112 嵯峨御所役所札〈箱木 真人蔵〉…………… 474
写真101 有馬温泉入初式(『有馬 温泉史料』上)…………… 435	写真113 天保2年奉納兵庫津沖 船絵馬〈神戸市立博物 館蔵〉…………… 477
写真102 宝永7年有馬山絵図 〈神戸市立中央図書館蔵〉…………… 437	写真114 北風荘右衛門羽織仕切 状〈岸田家文書江差町教 育委員会提供〉…………… 480
写真103 『兵庫名所記』(部分) …… 439	写真115 「松右衛門帆」(左)と 「刺帆」(右)の布地(石 井謙治『江戸海運と弁才 舟』)…………… 481
写真104 往来手形〈魚崎財産区 蔵〉…………… 443	写真116 兵庫にある工楽松右衛 門の墓(八王寺)…………… 482
写真105 御定宿案内(部分)〈坂 井淳二蔵〉…………… 444	写真117 嘉兵衛寄進の灯籠(稲 荷神社)…………… 483
[第4章]	写真118 浜本陣廻状(部分)〈安 田正造蔵〉…………… 487
屏写真 酒造 殿中図(『日本山 海名産図会』)〈大阪大学 附属図書館蔵〉……………	写真119 救恤寄附金受取書〈高 田保郎蔵〉…………… 490
写真106 寛政2年東尻池村一統 取締年中行事諸儉約帳 (表紙)〈宗国卓二蔵〉…………… 449	写真120 江戸廻米一件史料(御 用廻米買附覚・御用御
写真107 天明8年巡見時の魚崎 村嘆願書(部分)〈松尾仁 兵衛蔵〉…………… 452	
写真108 代官竹垣三右衛門所替 えにつき撰河播村々願書	

廻米積出并送り状控 表紙)〈国文学研究資料館史料館蔵〉……………	492	写真134 粃買入株(「酒造米株高帳」(部分)〈白鶴酒造(株)蔵〉)…	569
写真121 蕪村短冊〈荒尾親成蔵〉…	496	写真135 住吉付近の酒蔵と水車(『撰津名所図会』)〈神戸市立中央図書館蔵〉……………	577
写真122 芝居小屋(『播磨名所巡覧図会』)〈神戸市立中央図書館蔵〉……………	499	写真136 上灘組酒造行司廻状(部分)〈柴田和夫蔵〉……………	593
写真123 佐比江(『撰津名所図会』)〈神戸市立中央図書館蔵〉……………	501	写真137 酒造 酩おろし図(『日本山海名産図会』)〈大阪大学附属図書館蔵〉……………	615
写真124 菜種栽培(『国産考』)〈大阪府立中之島図書館蔵〉…	505	写真138 江戸酒問屋の繁盛(『江戸名所図会』)……………	635
写真125 綿栽培(『綿圃要務』)〈大阪府立中之島図書館蔵〉…	507	写真139 江戸酒問屋仕切状〈柴田和夫蔵〉……………	641
写真126 綿繰り作業(『綿圃要務』)〈大阪府立中之島図書館蔵〉……………	509	写真140 菱垣廻船図(上:19世紀初期・下:表菱垣)(石井謙治「江戸海運と弁才船」)……………	649
写真127 菜種訴願状(部分)〈芝切義寛蔵〉……………	512	写真141 北前船絵馬〈江差町教育委員会提供〉……………	661
写真128 髪結(『日本名所風俗図会』)〈兵庫県立図書館蔵〉…	518	写真142 加賀国橋立西出家「歳々惣金勘定帳」(部分)〈西出宣蔵〉……………	671
写真129 雁頭鋸(上)・台伐り(下)〈竹中大工道具館蔵〉…	520	写真143 銜原のおかげ灯籠(大蔵神社)……………	682
写真130 虚無僧の本寺京都明暗寺……………	522	写真144 御師来田新左衛門書状〈内田正一蔵〉……………	683
写真131 長谷銅山付近図(「撰津国八部郡全図」)〈神戸市立博物館蔵〉……………	551	写真145 石戸神社御頭の記録(部分)〈前開中自治会蔵〉……………	685
写真132 多田銅山役人給米他請取覚〈田中 滋蔵〉……………	552	写真146 長田神社「御幸之次第」(表紙)〈中西英雄蔵〉……………	686
写真133 兵庫生け洲(『撰津名所図会』)〈神戸市立中央図書館蔵〉……………	557	写真147 近江寺鬼追い……………	688
		写真148 上谷上農村歌舞伎舞台	



(天満神社拝殿)……………	691	掛札〈袖垣 実藏〉……………	736
写真149 大塩平八郎(中斎)書状 (逸見仙二宛)〈植田清津 子藏〉……………	695	写真160 「明石藩京都警衛郷人 足組内割付帳」(表紙)〈池 田淳司藏〉……………	742
写真150 「婚礼式祝帳」(表紙) 〈井上好太郎藏〉……………	700	写真161 征長軍(「記憶之友」) 〈井上 勉藏〉……………	743
写真151 曆(部分)〈神戸市立博 物館藏〉……………	701	写真162 「紀産物諸事扣」(表紙) 〈松尾仁兵衛藏〉……………	769
〔第5章〕		写真163 そうめん干し(大和国 三輪 『日本山海名物図 会』)〈大阪大学附属図書 館藏〉……………	770
扉写真 開港風景(『THE ILLUSTRATED LONDON NEWS』)〈神戸市立博物 館藏〉		写真164 明治期の精米水車(「御 影の里」)……………	777
写真152 兵庫津箱館産物会所設 立につき内存取調書(表 紙)〈安田正造藏〉……………	713	写真165 宮水発祥之地碑……………	800
写真153 兵庫のコボチ(「記憶之 友」)〈井上 勉藏〉……………	717	写真166 酒造 酒あげすまし図 (『日本山海名産図会』) 〈大阪大学附属図書館藏〉……………	804
写真154 慶応2年「御用金御請 高書上帳」(部分)〈岡方 協議会藏〉……………	719	写真167 流行酒銘録(灘目)〈「和 漢酒文献類聚」……………	806
写真155 大正期の和田岬砲台 (三菱重工業㈱神戸造船 所構内)……………	725	写真168 兵庫津風景(シーボル ト『日本』)〈神戸市立博物 館藏〉……………	823
写真156 おかけ提灯(「記憶之 友」)〈井上勉藏〉……………	730	写真169 「藤田常之助船荷物積 手板」(表紙)〈井上家文 書〉……………	832
写真157 大坂炎上の遠望(「記憶 之友」)〈井上勉藏〉……………	731	写真170 兵庫津造船場(若林秀 岳画)〈神戸市立中央図書 館藏〉……………	841
写真158 国語惣代よりの急廻文 写〈神戸大学人文社会系 図書館藏〉……………	735	写真171 現在の有馬温泉……………	854
写真159 八部郡中諸働化取締り		写真172 有馬温泉の明神祭(『撰 津名所図会』)〈神戸市立 中央図書館藏〉……………	861

写真173 『新板ありまぶし』(部分)〈神戸市立中央図書館蔵〉	865
写真174 徳川道(柚谷峠付近)	872
写真175 ペリー上陸応接図〈横浜開港資料館蔵〉	875
写真176 神奈川宿はずれ明石藩松平兵部大輔台場の図〈神戸市立博物館蔵〉	879
写真177 ロシア軍艦の大阪湾進入〈神戸市立博物館蔵〉	882
写真178 『亜墨利加国条約並税則全』(部分)〈神戸市立博物館蔵〉	886
写真179 竹内使節の一行(『イリュストラシオン日本関係記事集』1)	888
写真180 薩摩藩浜本陣の門	891
写真181 舞子砲台〈大阪市立博物館蔵〉	895
写真182 土台場での大砲試射(「記憶之友」)〈井上 勉蔵〉	900
写真183 海軍營の碑〈勝海舟撰文〉	902
写真184 鹿児島沖の外国軍艦(『THE ILLUSTRATED LONDON NEWS』)〈神戸市立博物館蔵〉	905
写真185 明治期の川崎砲台(『THE FAR EAST』)〈神戸市立博物館蔵〉	908
写真186 北風荘右衛門へ兵庫商社肝煎申渡し書〈安田正造蔵〉	910

写真187 開港神戸の風景(『THE ILLUSTRATED LONDON NEWS』)〈神戸市立博物館蔵〉	913
写真188 明治初期の居留地付近図〈神戸市立中央図書館蔵〉	916

## 図

### 〔第1章〕

図 1 慶長国絵図にみる山路庄付近村々(原図 慶長撰津国絵図)〈西宮市立郷土資料館蔵〉	5
図 2 農家平面図	38

### 〔第2章〕

図 3 摂津国所領配置の変遷	57
図 4 兵庫津略図〈原図 榎井千冬蔵〉	87
図 5 兵庫津陣屋(全図)〈原図 鴛尾寧一蔵〉	95
図 6 浜本陣(網屋惣兵衛)平面図〈原図 安田正造蔵〉	108
図 7 元禄郷帳にみえる正保以後の明石郡新村	122
図 8 刈藻川付近水論関係村々位置図	140
図 9 和田山争論関係図(原図 争論立会絵図)〈宗国卓二蔵〉	148
図10 塩生野村付近図	152

図11 漁場区分図……………	163	図28 二郎村付近概念図……………	531
図12 近世前期の主要道……………	193	図29 兵庫生け洲平面図〈原図 神戸市立博物館蔵〉……………	556
図13 兵庫駅馬借所位置図〈原 図 安田正造蔵〉……………	195	図30 一紙送り状書式……………	564
図14 兵庫宿本陣井筒屋（衣笠 又兵衛）平面図（原図 『神戸市史付図』）……………	196	図31 天明～寛政期における地 域別江戸入津樽数の変遷……………	567
図15 淡河町区域の変遷……………	217	図32 享和～文政期における地 域別江戸入津樽数の変遷……………	575
図16 東廻り・西廻り航路図……………	222	図33 酒仕込工程図……………	596
図17 大阪湾要図……………	231	図34 寛政7年嘉納治兵衛北蔵 の仕込期間（「白嘉納家文 書」）……………	597
〔第3章〕			
図18 旗本宮崎氏系図……………	268	図35 灘目水車の分布（原図 『西宮市史』2）……………	599
図19 勤番所平面図（原図『神 戸市史付図』）……………	292	図36 伊丹酒と灘酒の仕込量の 変遷……………	601
図20 岡方惣会所平面図（原図 『神戸市史付図』）……………	293	図37 柴屋善右衛門酒造蔵平面 図（原図「白嘉納家文書」）…	605
図21 西撰における明和7年の 油仕法による種物・油の 流通機構（新保 博『封 建的小農民の分解過程』）…	344	図38 千石造り酒蔵設計案平面 図（原図 正井達次郎）…	606
図22 天明5年(1785)の地域別 江戸入津樽数……………	363	図39 嘉納治兵衛稼働蔵の三役 出身地別人数（「白嘉納家 文書」）……………	608
図23 摂泉十二郷地域図（原図 『伊丹市史』2）……………	366	図40 酒造仕込における生産費 割合……………	617
図24 新酒番船札（原図『西宮 市史』2）……………	385	図41 天明6年嘉納治兵衛の酒 造米購入状況……………	621
図25 魚崎村御影村浦境略図 〈原図 魚崎財産区蔵〉……………	404	図42 酒造勘定帳の作成過程 （「本嘉納家文書」）……………	625
図26 六甲横越え通路関係図……………	416	図43 嘉納治郎右衛門家の総勘 定帳と店卸帳……………	628
〔第4章〕			
図27 国訴関係地略図……………	503	図44 直受け・出店受け・支配 受け一覧（『灘酒沿革	

誌』)……………	637
図45 受荷手続と仕切手続……………	639
図46 菱垣廻船の積荷位置図 (原図「油問屋旧記」)〈東 京都公文書館蔵〉……………	658
図47 往来手形……………	669
図48 北風荘右衛門鹹粕代預り 手形……………	670
図49 農家の三類型〈原図 八 多町中自治会蔵〉……………	707
〔第5章〕	
図50 各村の世帯規模別構成……………	755
図51 各村の年齢別人口構成……………	757
図52 明治前期の灘目水車位置 図(都賀川・住吉川付近) ……	778
図53 炭坑関係図(原図「摂津 八部郡図」)〈神戸市立博 物館蔵〉……………	782
図54 幕末期における摂泉十二 郷の江戸入津樽数の変遷……………	790
図55 幕末期における灘目四組 の江戸入津樽数の変遷……………	792
図56 幕末期における上灘三組 の江戸入津樽数の変遷……………	793
図57 商品輸送と取引形態(賃 積船と買積船)……………	825
図58 廻船加入証文(徳用配分 型)……………	828
図59 廻船加入証文(年賦償還 型)……………	829
図60 樽廻船経営の実態と帳簿 組織……………	831

図61 徳川道(西国往還付替道) 〈原図『徳川道』〉……………	869
図62 海軍操練所略図〈原図 『神戸市史』付図〉……………	896
図63 居留地関係図〈原図『神 戸市史』資料3〉……………	911

## 付 図

付図 1 元和4年ころの所領配置図	
(1) (八部・菟原)……………	30
(2) (有馬・美糞)……………	32
(3) (明石)……………	34
付図 2 明和6年上知後の所領配置図	
(1) (八部・菟原)……………	36
(2) (有馬・美糞)……………	38
(3) (明石)……………	40

## 表

〔第1章〕	
表 1 兵庫各町の反当平均石盛 (慶長7年(1602))……………	45
〔第2章〕	
表 2 摂津3郡の石高・田畑面 積・里数(慶長10年(1605)頃) ……	52
表 3 明石郡・美糞郡の石高の 推移……………	71
表 4 明石郡中村・奥畑村の石 高推移……………	71
表 5 有馬郡村々の村高の推移……………	72
表 6 寛文4年(1664)尼崎藩の	

打ち出し高……………73	表27 貞享3年(1686)板宿村の 村内身分…………… 126
表7 尼崎藩各村の本田高と打 ち出し高の年貢率比較 (寛文期)……………74	表28 貞享3年(1686)板宿村の 下人・奉公人…………… 127
表8 東尻池村の年貢率・年貢 量(Ⅰ)……………75	表29 延宝8年(1680)八部郡 (山田)坂本村の階層構成…………… 128
表9 東尻池村の年貢率・年貢 量(Ⅱ)……………76	表30 元禄14年(1701)須磨組17 ヵ村の家数・人数・在村 率…………… 132
表10 東尻池村の池溝・新開高……………78	表31 元禄14年(1701)須磨組17 ヵ村の奉公人と船乗り…………… 135
表11 西小部村の年貢率……………79	表32 八部郡中村の池床…………… 138
表12 西小部村の貢租形態……………81	表33 伊川谷掘割工事の見積り…………… 142
表13 八部郡中村の延宝検地……………83	表34 板宿村の農民構成…………… 155
表14 有馬郡(八多)中村の延宝 検地……………84	表35 八部郡(山田)坂本村の農 民構成(延宝8年(1680))…………… 158
表15 慶長7年兵庫各町の地子 方筆数一覧……………89	表36 明石藩領期の漁業税目…………… 166
表16 兵庫奉行の変遷…………… 100	表37 元禄10年(1697)兵庫津の 酒造米高…………… 177
表17 兵庫津三方の名主の変遷…………… 104	表38 元禄10・11年菟原・八部 郡の酒造人および酒造米 高…………… 178
表18 兵庫津三方の惣代の変遷…………… 105	表39 近世初期の湯山町の負担…………… 202
表19 兵庫津地方の庄屋の変遷…………… 106	表40 延宝検地による湯山町の 負担…………… 204
表20 兵庫津住民の職業(享保 年間)…………… 113	表41 湯山町の概況(宝永7年 (1710))…………… 205
表21 摂津3郡の郡別村高・村 数…………… 119	表42 湯山からの駄賃一覧(宝 永4年(1707))…………… 207
表22 有馬郡における村切り…………… 120	表43 有馬温泉関係の写本・版 本等(1)…………… 209
表23 明石郡・美囊郡の石高 村数の推移…………… 122	表44 淡河中村の概況…………… 216
表24 明石郡・美囊郡における 村切り…………… 123	表45 村上家大庄屋勤務の状況…………… 219
表25 元禄郷帳にみえる正保以 後の明石郡の新村…………… 123	
表26 天和2年(1682)野中村の 新田畑検地…………… 124	

表46	仕建廻船と兵庫津積問屋	230
表47	但馬今子浦入津の摂津廻船(享保4～11年(1719～26))	233
〔第3章〕		
表48	西小部村の年貢率	238
表49	西代村の年貢率	239
表50	明和6年(1769)幕府領(代官辻六郎左衛門預)に上知された村々	254
表51	尼崎藩歴代領主の所領構成	259
表52	尼崎藩松平氏家臣(知行取)の職制	261
表53	尼崎藩主の巡見人足割	264
表54	明石藩公定の奉公人給米(宝永7年(1710))	266
表55	明石藩公定の職人賃金	267
表56	旗本宮崎氏の支出案(延享元年(1744))	277
表57	大坂へ移入された主要商品の变化	283
表58	兵庫津の町・家・人数の変遷	287
表59	天和元年(1681)兵庫津川西・川東の耕地所有状況	289
表60	兵庫津地子方の貢租(文久3年(1864))	294
表61	兵庫津地子方の運上・冥加金(文久3年)	295
表62	兵庫津地方の貢租(嘉永	

	4年(1851))	296
表63	兵庫津株仲間冥加金(天明7年(1787))	296
表64	近世前・中期の階層構成	306
表65	明和2年(1765)板宿村の階層構成	309
表66	中灘組の廻在者への対応	318
表67	中灘組月別の廻在者への対応	318
表68	村を巡る人々(寛政12年10月)	319
表69	菟原郡郡家村の畑作物	324
表70	分家三左衛門の譲受け道具	327
表71	八部郡南部諸村の稲品種	331
表72	各村の粃反当播種量	332
表73	各村の農間余業	333
表74	花熊村の農外産業従事戸数(明和4年(1767))	335
表75	各村の農外産業	335
表76	御影村(西組・東組)の職業構成(明和6年(1769))	336
表77	脇浜村の職業構成(天明6年(1786)と推定)	337
表78	水車新田における水車数・運上銀の変遷	340
表79	水車新田における絞油量	342
表80	水車新田への綿実廻着高	344
表81	天明8年(1788)の水車数	346
表82	享保9年(1724)江戸積酒産地および酒屋数	350
表83	灘三郷(近世)・灘五郷(近代)の地域区分	352

表84	御影村(西組) 1町歩以上 土地所有者の変遷……………	354
表85	明和5年(1768)御影村西 組の酒造石高……………	357
表86	明和5年(1768)兵庫津の 酒造減石高……………	360
表87	天明5年(1785)御影村西 組の酒造株高と酒造米高……	364
表88	大坂より江戸への商品別 入津高……………	373
表89	享保11年江戸入荷量に占 める大坂よりの割合……………	373
表90	安永元年(1772)樽廻船間 屋一覧……………	378
表91	安永2年(1773)菱垣廻船 間屋一覧……………	378
表92	西宮・灘目・兵庫各浦の 廻船・小船数……………	383
表93	新酒番船一覧……………	386
表94	摂津浦々の水主役割付状 況……………	391
表95	天保9年(1838)の浦役負 担村々……………	392
表96	天和・貞享ころの尼崎藩 領における船数……………	397
表97	天明8年(1788)の各浦船 数……………	399
表98	魚崎村における船数の変 遷……………	400
表99	兵庫駅周辺村の貨運送稼 ぎ口銭……………	414
表100	兵庫駅付属助郷村の掛り 高(明和8年(1771))……………	419

表101	兵庫駅助成の貸付利金下 付額……………	421
表102	飛脚仲間一覧……………	423
表103	江戸・大坂間の飛脚料金 (文化3年(1806))……………	425
表104	早飛脚(油方米方)ネット ワーク(組合継ぎ所)……………	427
表105	山中組飛脚仲間(文政元 年(1818))……………	428
表106	湯山町の町年寄の変遷……………	430
表107	天明2年(1782)湯山町の 年貢負担……………	434
表108	有馬温泉関係の写本・版 本等(2)……………	436
表109	『摂津名所図会』の市域内 名所・旧跡(抄)……………	441
表110	『播磨名所巡覧図会』の市 域内名所・旧跡(抄)……………	442
表111	福原三十三番観音札所 (『兵庫名所記』)……………	445

〔第4章〕

表112	神戸村の家出青年(天保 7~8年)……………	461
表113	八部郡幕府領村々の尼崎 藩銀札……………	470
表114	明石藩領外村々の同藩銀札…	471
表115	有馬郡における私札の発 行状況……………	473
表116	北風荘右衛門家の不動産 取得……………	485
表117	明治維新ころまで続いた 浜本陣……………	487

表118 文化初年の兵庫津の株仲間…	493	表138 湯山町の鉱山差止め……………	550
表119 文政10年(1827)菜種訴訟 の経費……………	515	表139 長谷銅山の稼行状況……………	554
表120 文政10年訴訟願経費の3郡 割賦方法……………	516	表140 魚崎村の魚漁運上と浦銀……	559
表121 八部郡諸村の菜種販売高 と販売先(文化10年(1813))…	525	表141 明石藩規定漁期……………	560
表122 花熊村の菜種販売高と販 売先……………	526	表142 天明期株改め時の請株状 況……………	563
表123 花熊村の農民持高別菜種 販売高……………	527	表143 寛政4年(1792)下り酒11 カ国の「御分量目当高」……	565
表124 芝家の稲品種別播種量……………	528	表144 寛政5年(1793)上灘3組 酒造家数・造石高……………	571
表125 芝家の農産物販売状況……………	530	表145 寛政5年(1793)上灘郷各 村の酒造家名・造石高一 覧……………	573
表126 芝家の米販売状況(天明6 (1786)～天保15(1844))……	531	表146 摂泉十二郷酒造株高の変 遷……………	584
表127 芝家の菜種販売状況……………	532	表147 摂泉十二郷酒造株高と江 戸積高の割合……………	586
表128 芝家の肥料購入状況……………	532	表148 文政期兵庫ほか江戸積・ 地売両株高の割合……………	587
表129 藤田家の農業生産(文化 3年(1806))……………	534	表149 天保3年(1832)灘目4組 の新規株・古株請高状況……	588
表130 藤田家の農産物販売額 (文化3年(1806))……………	534	表150 享和～天保期の灘目4組 村別酒造株高比較……………	590
表131 「不正油稼人」摘発件数……………	538	表151 文政末期の灘目各村別江 戸入津駄数……………	591
表132 油冥加銀分担額……………	540	表152 嘉納治兵衛北蔵の仕込要 項……………	598
表133 江戸下り油の出荷量……………	540	表153 酩立期間・仕込期間など の変遷……………	603
表134 菜種・綿実の買請高(文 化14年(1817)～文政9年 (1826))……………	543	表154 嘉納治郎右衛門稼働蔵の 杜氏出身地……………	609
表135 菜種・綿実の絞油高(文 化14年(1817)～文政9年 (1826))……………	544	表155 灘 東郷(魚崎村ほか)の 出身地別蔵人数(明治19	
表136 摂津灘目両組油総高……………	545		
表137 摂津灘目両組の絞油高お よび出荷高……………	547		



年(1886) …………… 611	廻船一覧…………… 663
表156 嘉納治郎右衛門本店蔵の 蔵人給銀(文久3年(1863))… 613	表173 清水屋「客船帳」の高田 屋手船…………… 667
表157 酒造仕込み流動資本の投 入状況(弘化3～4年 (1846～47)) …………… 619	表174 北前船栄寿丸の運航状況 (天保13年8月～同15年 7月) …………… 673
表158 文化13年(1816)小豆島屋 本店の酒造米購入価格………… 622	表175 栄寿丸の売仕切(天保13 年9月～同14年4月) …………… 674
表159 武庫・菟原・八部3郡酒 造家の酒米買入れ場所 (天保7年(1836))…………… 623	表176 白川村の年中行事(宝暦 14年(1764)) …………… 679
表160 文化12年(1815)嘉納治郎 右衛門前蔵「酒造勘定帳」 の損益計算書…………… 626	表177 明石郡能舞台の分布(享 保ころ) …………… 689
表161 文化13年(1816)本嘉納家 「勘定帳」の損益計算書 …… 629	表178 大庄屋家の主な蔵書目録 (明石郡細田村大西家)………… 694
表162 文化13年本嘉納家「店卸 帳」の貸借対照表…………… 629	表179 庄屋家の主な蔵書目録 (菟原郡岡本村井上家)………… 694
表163 本嘉納家の営業部門別徳 用銀一覧…………… 630	表180 『太夫桜』『福原鬘鏡』の 市域在村作者…………… 697
表164 本嘉納家の店卸勘定一覧………… 631	表181 上野村の升所有状況………… 702
表165 本嘉納家の蔵当たり酒造 収益銀…………… 634	表182 西小部村の農家(文化11 年(1814)) …………… 706
表166 下り酒問屋軒数一覧…………… 637	〔第5章〕
表167 下り酒問屋新旧軒数の変 遷…………… 642	表183 株仲間再興後の兵庫津の 株仲間…………… 710
表168 摂泉十二郷における清酒 の販路(天保7年(1836)) …… 647	表184 蝦夷地産「鯨」の価格上 昇…………… 714
表169 菱垣廻船海損被害額…………… 652	表185 万延元年(1860)11月14日 の兵庫津米相場…………… 716
表170 文化6年(1809)夏の難破 船調査…………… 653	表186 和田岬砲台の仕様…………… 724
表171 大岡藤二の新造船計画案………… 654	表187 八部郡の諸働化取締費 (嘉永3年(1850))…………… 737
表172 清水屋「客船帳」の兵庫	表188 郡中取締費の割賦仕法………… 737

表189 八部郡における労賃の協 定(天保13年(1842))……………	739	変遷……………	774
表190 板宿村の献金……………	743	表212 天保9年(1838)灘地域に おける水車の分布……………	779
表191 1人当たり石高からみた 村の配置……………	745	表213 明和8年(1771)兵庫津周 辺における水車の分布……………	780
表192 板宿村の人口動態……………	747	表214 嘉永6年(1853)再度谷に おける水車の分布……………	780
表193 結場村の人口動態……………	748	表215 石炭運送道路用地の買収……………	784
表194 魚崎村の人口動態……………	749	表216 慶応3年(1867)の石炭産 出状況……………	785
表195 神戸村の人口変遷……………	750	表217 所有株高別酒造家数の変 動(天保8年→明治3年)……………	794
表196 上野村の人口動態……………	751	表218 天保3年(1832)御影村西 組の酒造株一覧……………	796
表197 木見村の人口動態……………	752	表219 明治元年(1868)御影村の 酒造稼鑑札高一覧……………	797
表198 板宿村の世帯人数……………	753	表220 幕末期魚崎村の主要酒造 家一覧……………	801
表199 上野村の世帯人数……………	753	表221 弘化4年(1847)九店差配 廻船数……………	811
表200 神戸村の世帯人数……………	754	表222 九店差配廻船名と仕建回 数(弘化4年1月～5月)……………	813
表201 花熊村の持高構成……………	759	表223 九店差配廻船一覧……………	815
表202 板宿村の持高構成……………	759	表224 樽廻船問屋差配の樽廻船 数……………	818
表203 上大沢村の持高構成……………	760	表225 船主船籍地別樽廻船数……………	819
表204 西小部村の持高構成……………	760	表226 文久2年(1862)の樽廻船 一覧……………	821
表205 花熊村農民のうち他農民 からの貢租納入分をもつ 例(弘化2年(1845))……………	762	表227 嘉納治作船の乗組員とそ の出身地……………	834
表206 花熊村農民のうち他農民 の貢租を納入する例(弘 化2年(1845))……………	763	表228 嘉納治郎右衛門手船亀徳 丸の新造・作事修復一覧……………	836
表207 魚崎村における樽屋職の 変遷……………	766	表229 亀徳丸の稼働状況と徳用	
表208 安政3年(1856)摂泉十二 郷の酒樽屋数……………	767		
表209 安政2年(1855)御影村の 諸職……………	768		
表210 魚崎村における素麺屋職 の変遷……………	771		
表211 魚崎村における焼酎屋の			

銀	837
表230 亀徳丸の樽柱建勘定（安政2年12月）	839
表231 兵庫駅人馬賃銭経費の推移	849
表232 湯山町の家数・人口（1）	855
表233 湯山町の家数・人口（2）	857
表234 有馬温泉関係の写本・版本等（3）	863
表235 西国往還付替道と工事分担	871

付 表

付表 1 摂津国所領配置の変遷	44
付表 2 元和3年明石藩（小笠原忠真）領になった市域の村々	46
付表 3 元和3年尼崎藩（戸田氏鉄）領になった市域の村々	47
付表 4 寛永3年大坂城代阿部正次領になった市域の村々	48
付表 5 慶安元年大坂定番保科正真（飯野藩）領になった市域の村々	48
付表 6 寛永3年三田藩（松平重直）領になった市域の村々	49
付表 7 慶長19年片桐貞隆（小泉藩）領になった市域の村々	49

付表 8 元和3年篠山藩（松平康重）領であった市域の村々	50
付表 9 元和3年蒔田広定（浅尾藩）領であった市域の村々	50
付表10 元和3年杉原長房（豊岡藩）領であった市域の村々	51
付表11 元和3年長谷川守知領であった市域の村	51
付表12 元和3年石河貞政領であった市域の村	51
付表13 元和3年船越永景領であった市域の村々	52
付表14 元和3年畠山政信領であった市域の村々	52
付表15 元和3年青木可直領であった市域の村	52
付表16 元和3年佐久間実勝領であった市域の村	53
付表17 元和3年伊藤猪左衛門領であった市域の村	53
付表18 元和3年西川八右衛門領であった市域の村	53
付表19 慶安2年大坂定番阿部信盛（岡部藩）領になった市域の村々	54
付表20 正徳2年古河藩（本多忠良）領になった市域の村々	55
付表21 延享3年田安徳川家領になった市域の村々	55

付表22 寛文5年宮崎政泰領に なつた市域の村……………56	付表28 伊丹酒と灘酒の仕込方 法の変遷……………62
付表23 元禄13年鈴木重視領に なつた市域の村……………56	付表29 酒造仕込みの生産費項 目……………63
付表24 明和6年伏屋為将領に なつた市域の村……………56	付表30 天明6年(1786)嘉納治 兵衛の酒造米購入状況……………62
付表25 文化3年(1806)藤田家 の農産物販売状況……………57	付表31 幕末期における摂泉十 二郷の江戸入津樽数の変 遷……………64
付表26 天明～寛政期における 地域別江戸入津樽数の変 遷……………58	付表32 幕末期における灘目四 組の江戸入津樽数の変遷……………64
付表27 享和～文政期における 地域別江戸入津樽数の変 遷……………60	付表33 幕末期における上灘三 組の江戸入津樽数の変遷……………64

## 参考文献目録

### 第1章

- 大阪府史編集専門委員会『大阪府史』5, 6 昭和60, 62年  
落合重信『神戸の歴史 研究編』(「花熊城と一向一揆」) 後藤書店 昭和55年  
神戸市教育委員会『神戸市文献史料』1 昭和53年  
神戸市教育委員会『岡方文書』1-1 昭和54年  
龍野市史編纂専門委員会『龍野市史』2 昭和56年  
間屋真一「十六～十七世紀初頭の摂津国兵庫津資料」(神戸市立博物館『研究紀要』4 昭和62年)  
兵庫県史編集専門委員会『兵庫県史』3 昭和53年  
兵庫県史編集専門委員会『兵庫県史』史料編 中世1, 2 昭和58, 62年  
兵庫県史編集専門委員会『兵庫県史』史料編 近世1 平成元年  
藤木喜一郎「文禄三年谷上村検地帳について」(『関西学院史学』8 昭和39年)  
ルイス=フロイス『日本史』柳谷武夫訳(東洋文庫)1～5 平凡社 昭和38～53年

### 第2章 (第1章と重複するものは除く)

- 尼崎市『尼崎市史』2, 5 昭和43, 49年  
伊丹市史編纂専門委員会『伊丹市史』2 昭和44年  
今井林太郎・八木哲浩『封建社会の農村構造』有斐閣 昭和30年  
大阪府編『大阪府誌』3 明治36年  
岡田米夫『長田神社史』長田神社 昭和47年  
小沢清躬『有馬温泉史話』五典書院 昭和13年  
落合重信『神戸の未解放部落』神戸部落史研究会 昭和43年  
落合重信『未解放部落の起源』神戸学術出版 昭和48年  
小野晃嗣『日本産業発達史の研究』至文堂 昭和16年  
風早 恂編『有馬温泉史料』下 名著出版 昭和63年  
加藤弁三郎編『日本の酒の歴史』研成社 昭和52年  
金指正三『日本海事慣習史』吉川弘文館 昭和42年

- 川村博忠『江戸幕府撰国絵図の研究』古今書院 昭和59年
- 関西学院大学灘酒経済史料編纂会『灘酒経済史料集成』上, 下 創元社 昭和25, 26年
- 木村 礎『日本村落史』吉川弘文館 昭和53年
- 木南 弘「和田山訴訟顛末記」(『神戸の歴史』7 昭和57年)
- 桑田 優「近世淡河町の成立過程」(『神戸の歴史』12 昭和60年)
- 神戸市神戸財産区編『神戸区有財産沿革史』昭和16年
- 神戸市『神戸市史』資料2, 3, 別録1 大正12~13年
- 神戸市教育委員会『神戸市文献史料』2~6 昭和54~59年
- 神戸市教育委員会『兵庫岡方文書』2~6 昭和54~平成3年
- 神戸税務監督局編『灘酒沿革誌』弘文堂 明治40年
- 児玉幸多『近世宿駅制度の研究』増訂版 吉川弘文館 昭和61年
- 佐々木潤之助『幕藩権力の基礎構造』(増補・改訂版)御茶の水書房 昭和60年
- 篠田 統『米の文化史』社会思想社 昭和45年
- 島田 清『有馬の歴史と文化財』昭和46年
- 住田正一編『海事史料叢書』1, 2, 4, 8, 17 敵松堂書店 昭和4~6年
- 高尾一彦『近世の農村生活』創元社 1958年
- 高尾一彦「江戸初期の農村構成とその発展」(『研究』16号 神戸大学文学部 昭和33年)
- 高木昭作「幕藩初期の国奉行について」(『歴史学研究』43) 青木書店 昭和51年
- 高木昭作「幕藩初期の身分と国役」(『歴史学研究』別冊) 青木書店 昭和51年
- 高瀬 保『加賀藩海運史の研究』雄山閣 昭和54年
- 地域研究史料館「尼崎領内高・家数・人数・船数等覚」(『地域史研究』10—2 1981)
- 辻本清蔵『有馬温泉誌』大阪活版印刷所 大正4年
- 豊田 武・児玉幸多編『交通史』(大系日本史叢書) 山川出版社 昭和45年
- 中谷保二『浜本陣の研究』洛北書房 昭和31年
- 西灘村役場『西灘村史』大正15年
- 西宮市『西宮市史』2, 5 昭和35, 38年
- 日本海事史学会編『続海事史料叢書』1~8 成山堂出版 昭和44~59年
- 野中準等修『大日本租税志』2 清文堂 昭和46年
- 羽曳野市史編纂委員会編『羽曳野市史』2 昭和52年
- 葉山禎作「近世初期の農業生産と農民生活」(講座『日本歴史』10 岩波書店)

- 1975年)
- 葉山禎作「封建的小農民経営の分立期における家族形態」(『家族史研究』3 大月書店 1981年)
- 葉山禎作『近世農業発展の生産力分析』御茶の水書房 1969年
- 兵庫県美囊郡教育会『美囊郡誌』(復刻版) 名著出版 昭和50年
- 兵庫県史編集専門委員会『兵庫県史』4 兵庫県 昭和54年
- 福井県立図書館・福井県郷土誌懇談会共編『日本海海運史の研究』福井県立図書館 昭和42年
- 福尾猛市郎「羽柴秀吉と兵庫・三田城」(『兵庫県の歴史』10) 昭和48年
- 藤木久志『豊臣平和令と戦国社会』東京大学出版会 昭和60年
- 藤野 保『幕政と藩政』吉川弘文館 昭和54年
- 三木市『三木市史』昭和45年
- 水江漣子「町名主」(西山松之助編『江戸町人の研究』4 吉川弘文館 昭和50年)
- 宮川 満『家族の歴史的研究』日本図書センター 1983年
- 村上直次郎訳『イエズス会日本年報』上・下 雄松堂 昭和44年
- 八木哲浩「撰津一国高御改帳の年代考証」(『地域史研究』3—3 尼崎市 昭和49年)
- 八木哲浩「天正拾九年撰津一国高御改帳」(『地域史研究』8—3 尼崎市 昭和54年)
- 八木哲浩「慶長十年撰津国絵図」(『地域史研究』10—1 尼崎市 昭和55年)
- 安田貞信『北風遺事』北 善平 昭和38年
- 柚木重三『灘酒経済史研究』象山閣 昭和16年
- 柚木 学『近世海運史の研究』法政大学出版局 昭和54年
- 柚木 学編『諸国御客船帳』清文堂 昭和52年
- 柚木 学編『近代海運史料』清文堂 平成4年
- 柚木 学編『日本海水上交通史』(『日本水上交通史論集』1) 文献出版 昭和61年
- 柚木 学編『続日本海水上交通史』(『日本水上交通史論集』2) 文献出版 昭和62年
- 柚木 学編『江戸・上方間の水上交通史』(『日本水上交通史論集』4) 文献出版 平成3年
- 柚木 学『近世灘酒経済史』ミネルヴァ書房 昭和40年

柚木 学『酒造りの歴史』雄山閣出版 昭和62年  
柚木 学『日本酒』（『日本の技術』3 第一法規出版 昭和62年）  
渡辺益国『石屋史の旅』渡辺石彫事務所 昭和62年

### 第3章 （第1, 2章と重複するものは除く）

青木虹二『百姓一揆の年次的研究』新生社 昭和41年  
芦屋市『新修芦屋市史』本編, 資料編2 昭和41, 61年  
大石愼三郎『享保改革の経済政策』御茶の水書房 昭和36年  
大石愼三郎『日本近世社会の市場構造』岩波書店 昭和50年  
大阪市役所編『大阪市史』1, 4上, 5 明治44年～大正2年  
太田陸郎「天明七年兵庫打泷」（『兵庫史談』4—12 兵庫史談会 昭和10年）  
岡 光夫『日本農業技術史』ミネルヴァ書房 1988年  
岡 光夫『近世農業経営の展開』ミネルヴァ書房 1966年  
岡 光夫「農村の変貌と在郷商人」（講座『日本歴史』11 岩波書店 1976年）  
岡山大学池田家文庫等刊行会『市政提要』福武書店 昭和48年  
金指正三『近世海難救助制度の研究』吉川弘文館 昭和43年  
岸本一雄編『わたしたちの郷土神出』神戸市立神出小学校 昭和39年  
北島正元『江戸幕府の権力構造』岩波書店 昭和39年  
ケンベル『江戸参府旅行日記』斎藤 信訳 平凡社 1987年  
兎玉幸多編『近世交通史料集』7 吉川弘文館 昭和49年  
中 維翰『海游録』姜 在彦訳 平凡社 1988年  
新保 博『封建的小農民の分解過程』新生社 昭和42年  
ジーボルト『ジーボルト最後の日本旅行』斎藤 信訳 平凡社 1987年  
住谷勇二「近世絞油業の発達」（『経済論叢』46—4 昭和13年）  
曾根ひろみ「享保期の裁判と法」（『講座日本近世史』4 有斐閣 1980年）  
宝塚市『宝塚市史』2, 5 昭和51, 53年  
地域研究史料館「天保九年巡見使通行御用之留」（『地域史研究』16—1, 2 昭和  
61年）  
辻 達也『享保改革の研究』創文社 昭和38年  
津田 秀夫『封建経済政策の展開と市場構造』御茶の水書房 1977年  
中井信彦『転換期幕藩制の研究』塙書房 昭和46年  
長倉 保「西摂灘における地主＝酒造資本の形成」（『ヒストリア』16号 大阪歴  
史学会 昭和31年）



- 長倉 保「江戸後期における酒造資本の存在形態」(『研究』神戸大学 昭和31年)
- 長倉 保「灘の酒」(『日本産業史大系』6 東京大学出版会 昭和35年)
- 野村兼太郎『村明細帳の研究』有斐閣 1949年
- 白鶴酒造株式会社編『白鶴古文書史料集』昭和53年
- 白鶴酒造株式会社編『白鶴二百三十年の歩み』昭和52年
- 羽曳野市編纂室編『羽曳野市史』5 昭和58年
- 兵庫県『兵庫県農具図解』明治22年
- 石坂孝二郎編『朝鮮通信使来朝帰帆官録』兵庫岡方古文書刊行委員 昭和44年
- 古島敏雄『日本農業技術史』(『古島敏雄著作集』6 東京大学出版会 1975年)
- 古島敏雄『日本農業史』岩波書店 1956年
- 松本四郎「商品流通の発展と流通機構の再編成」(『日本経済史大系』4 東京大学出版会 昭和40年)
- 村田誠治編『神戸開港三十年史』乾 開港三十年記念会 明治31年
- 本山村誌編纂委員会『本山村誌』, 史料編 昭和28年
- 八木哲浩『近世の商品流通』塙書房 昭和37年
- 蔵田 貫「国訴の研究」(『日本史研究』276 日本史研究会 1985年)
- 蔵田 貫「国訴と郡中議定」(『日本史研究』289 日本史研究会 1986年)
- 山下幸子「天明八年御巡見様御通行御用之留帳」(『地域史研究』1-2, 3 昭和47年)
- 魚崎町誌編纂委員会『魚崎町誌』昭和32年
- 中西天涯編『平野懐古物語』平野古蹟保存会 昭和15年
- 脇田 修編『近世大坂地域の史的分析』御茶の水書房 昭和55年

第4章 (第1, 2, 3章と重複するものは除く)

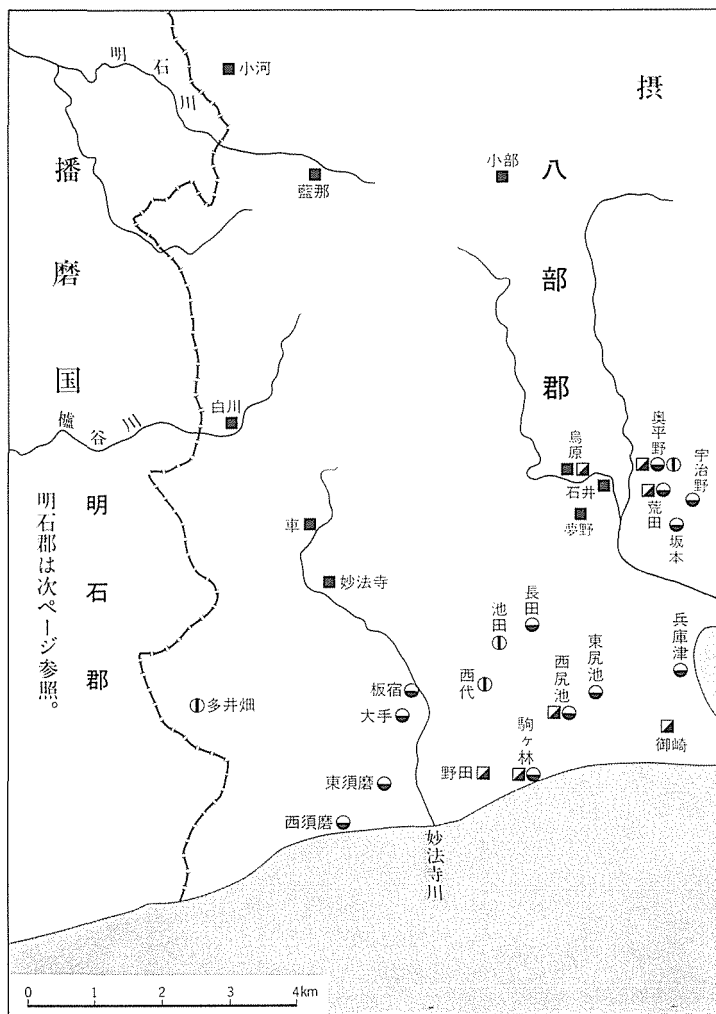
- 石井謙治『図説和船史話』至誠堂 昭和58年
- 石井謙治『江戸海運と弁才船』海事広報協会 昭和63年
- 生田神社社務所『生田神社史』上 昭和55年
- 榎森 進『北海道近世史の研究』北海道出版企画センター 昭和57年
- 大阪市役所編『大阪市史』2, 4下 大正3年, 明治45年
- 緒方正樹・永田実・志方隆司「北摂の農村舞台」(『歴史と神戸』56 神戸史学会 昭和57年)
- 小川国治『江戸幕府輸出海産物の研究』吉川弘文館 昭和48年
- 落合重信『神戸和歌史』上崎書店 昭和17年
- 落合重信編『兵庫県八郡郡地誌』後藤書店 1977年

勝 海舟『海軍歴史』(『勝海舟全集』勁草書房 1974年)  
河内長野市『河内長野市史』6 昭和52年  
菊正宗酒造株式会社編『本嘉納商店々史』昭和34年  
北島正元編『江戸商業と伊勢店』吉川弘文館 1962年  
黒田義隆編『明石史料(近世編)』6 明石市教育委員会 昭和60年  
桑田 優「近世における神戸地域の鉱業」(『神戸の歴史』20 平成2年)  
黒正 巖『百姓一揆の研究』続編 ミネルヴァ書房 昭和34年  
神戸市教育委員会『神戸の民俗芸能』東灘、灘・葦合・生田、兵庫・北、長田・  
須磨、垂水の各編 昭和50～54年)  
財政経済学会編『日本財政経済史料』財政経済学会 大正14年  
斎藤善之「内海船住吉丸の廻船経営」(『経済論集』2 日本福祉大学 平成3年)  
坂井華溪『撰西兵庫俳諧史』みるめ書房 昭和34年  
佐久間貴士「豊臣期大坂城下町の考古学的調査」(『ヒストリア』133 大阪歴史  
学会 平成元年)  
須藤隆仙『高田屋嘉兵衛』国書刊行会 平成元年  
高田義久『図説撰津国右馬郡紙幣史』昭和57年  
高柳真三・石井良助編『御触書天保集成』上 岩波書店 昭和12年  
田辺 真人「車の翁舞」(『歴史と神戸』56 神戸史学会 昭和47年)  
戸谷敏之『近世農業経営史論』日本評論社 1949年  
仲彦三郎『西撰大観』下 明輝社 明治44年  
中部よし子『城下町』柳原書店 昭和53年  
林 玲子『江戸問屋仲間の研究』御茶の水書房 昭和42年  
兵庫県部落史研究委員会編『兵庫県同和教育関係史料集』1 兵庫県同和教育協  
議会 昭和47年  
藤田 覚『幕藩制国家の政治史的研究』校倉書房 1987年  
古島敏雄「幕府財政収入の動向と農民収奪の画期」(『日本経済史大系』4 東京  
大学出版会 昭和40年)  
古島敏雄・永原慶二『商品生産と寄生地主制』東京大学出版会 1954年  
古島敏雄『近世日本農業の展開』東京大学出版会 1963年  
法制史学会編 石井良助校訂『徳川禁令考』創文社 昭和34～35年  
牧野隆信『北前船の研究』法政大学出版局 平成元年  
名生昭雄「丹生山田の農村歌舞伎」(『歴史と神戸』56 神戸史学会 昭和47年)  
御影町役場『御影町誌』 昭和11年

- 八木哲浩「西撰における中農層の商品生産」(大阪歴史学会編『封建社会の村と町』昭和35年)
- 山崎隆三『地主制成立期の農業構造』青木書店 1961年
- 山崎隆三『近世物価史研究』塙書房 昭和58年
- 山田郷土誌編纂委員会『山田郷土誌』2 昭和54年
- 横地信輔編『東京酒問屋沿革史』東京酒問屋統制商業組合 昭和18年
- 李 東彦「幕末・明治前期北摂農村における農業生産と農業経営」(『神戸の歴史』8 昭和58年)
- 第5章 (第1, 2, 3, 4章と重複するものは除く)
- 青山忠正「慶応期の政治過程と討幕の意義」(『日本史研究』283号 日本史研究会 1986年)
- 青山忠正「薩長盟約の成立とその背景」(『歴史学研究』557号 青木書店 1986年)
- 青山忠正「大坂開港一維新政府の成立と外交・貿易問題一」(『商業史研究所紀要』創刊号 大阪商業大学 1990年)
- 石井 孝『増訂 明治維新の国際的環境』吉川弘文館 1966年
- 石井 孝『日本開国史』吉川弘文館 1972年
- 維新史料編纂会編『維新史』第三巻 吉川弘文館 1983年
- 大阪府『大阪府史』7 平成元年
- 鹿児島県維新史料編さん所編『鹿児島県史料 忠義公史料』4 鹿児島県 1977年
- 勝 海舟編『開国起源』第五十章 (『勝海舟全集』19 講談社 1975年)
- 桑田 優「近世後期における摂州菟原郡魚崎村の産業」(『神戸の歴史』17 昭和62年)
- 徳川道調査委員会編『徳川道 西国往還付替道』神戸市市民局 昭和53年
- 宮内省『孝明天皇紀』3, 4 吉川弘文館 1967年
- 酒井 一「慶応2年大坂周辺打ち壊しについて」(『歴史科学大系』23 農民闘争史 下 校倉書房 昭和47年)
- 谷田盛太郎編『住吉村誌』住吉村 昭和21年
- 土屋喬雄ほか訳『ペルリ提督 日本遠征記』岩波書店 1948年
- 東京大学史料編纂所『大日本維新史料稿本』
- 日本史籍協会編『昨夢紀事』1 東京大学出版会復刻 1989年
- 日本史籍協会編『大久保利通文書』1 東京大学出版会復刻 1983年

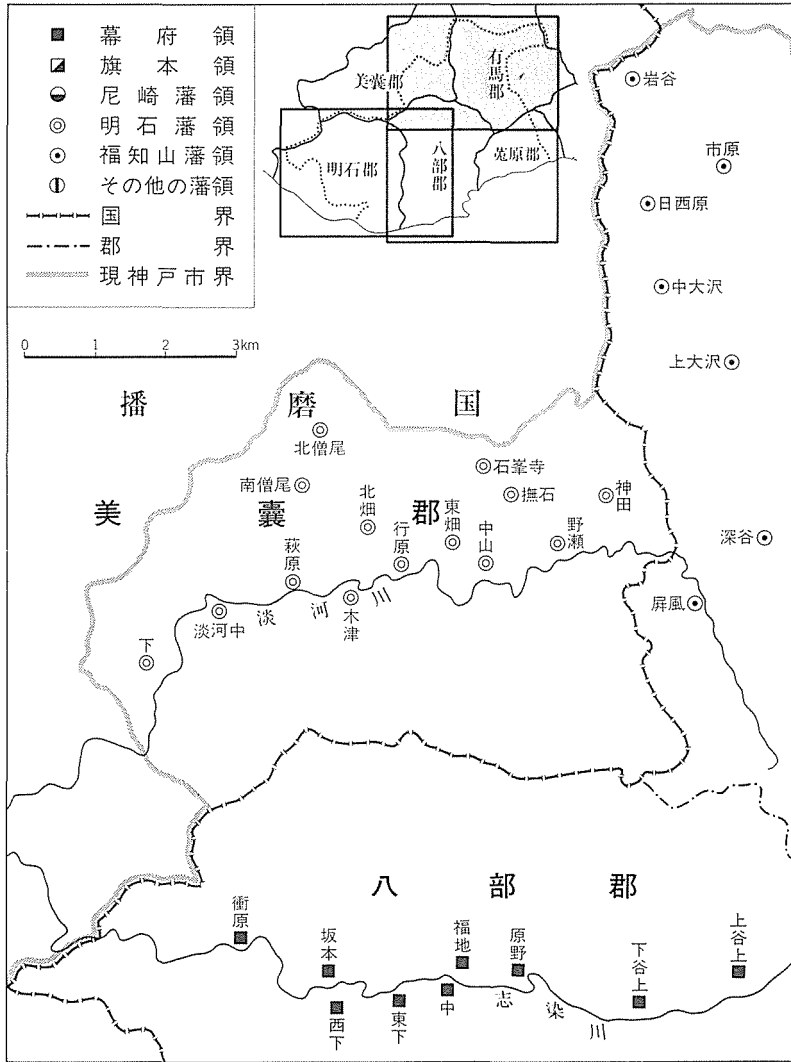
- 羽賀祥二「和親条約期の幕府外交」(『歴史学研究』482 青木書店 1980年)
- 速水融・新保博・西川俊作『数量経済史入門』日本評論社 1975年
- 速水 融『近世農村の歴史人口学的研究』東洋経済新報社 昭和48年
- 藤木喜一郎ほか『海の無残な物語』のじぎく文庫 昭和41年
- 本庄栄治郎『徳川幕府の米価調節』弘文堂書房 大正13年
- 松浦 昭「近世後期労働移動の一形態」(『社会経済史学』38—6 1973年)
- 松浦 昭「近世後期における人口動態」(『六甲台論集』19—3 1972年)
- 三井高陽『越後屋反古控』中央公論社 昭和57年
- 藪田 貫「元禄・享保期畿内の地域経済」(『講座日本近世史』4 有斐閣  
1980年)
- 柚木 学「近世十二郷酒樽屋仲間の成立とその動態」(『経済学論究』38—3 昭  
和59年)
- 海上保安庁水路部『日本水路史』日本水路協会 昭和46年
- 大蔵省編『日本財政経済史料』3 大正12年
- 外務省『続通信全覧 類聚之部二〇』雄松堂出版 1986年
- 山内神社宝物資料館『山内家史料 幕末維新』6 1984年

付  
図



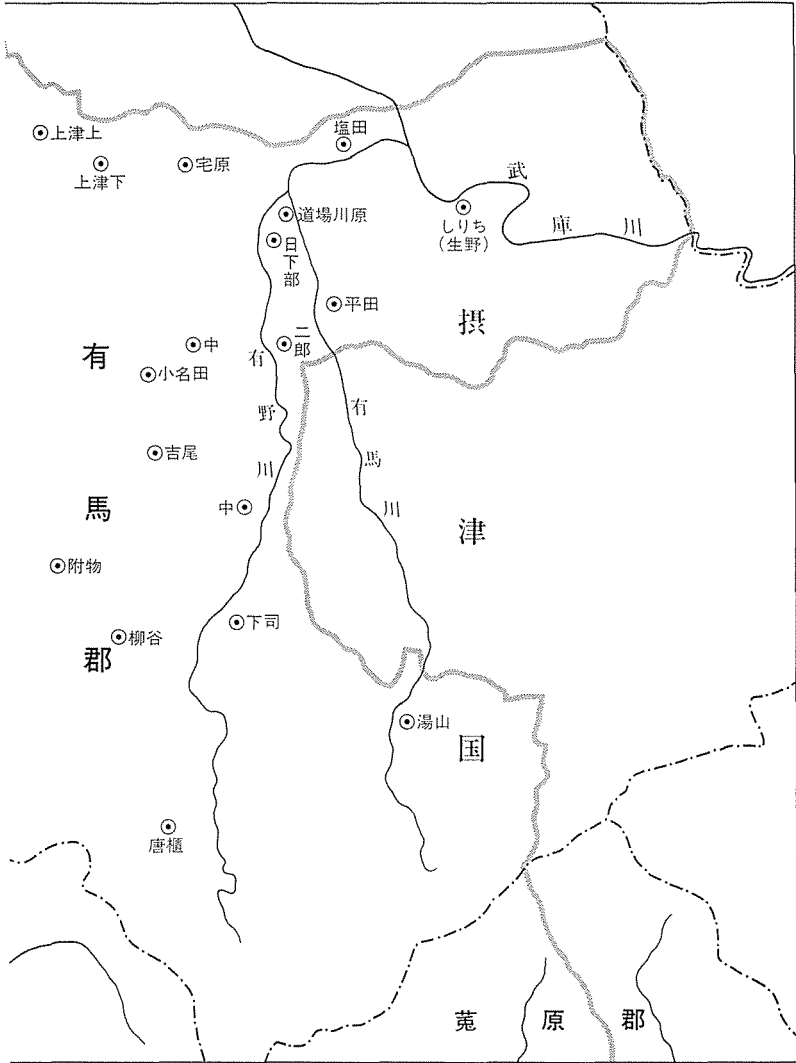
付図 1-(1)元和4年ころの所領配置 (八部・菟原)



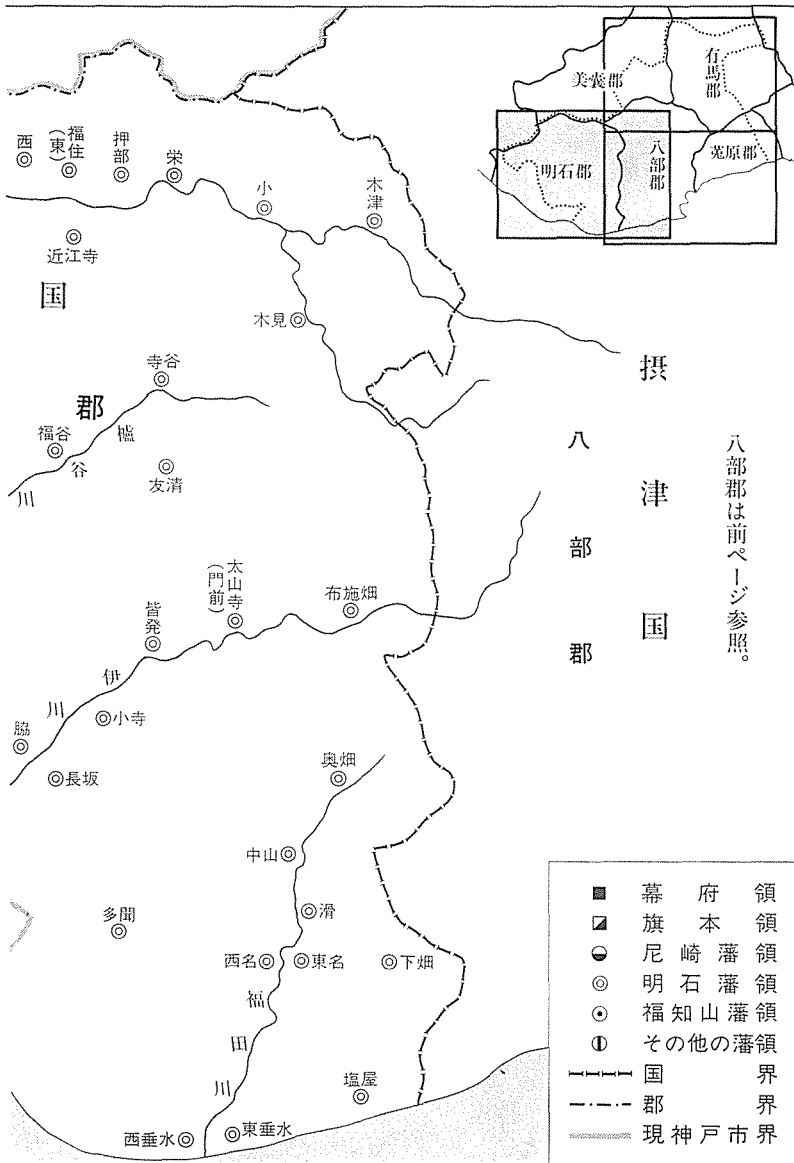


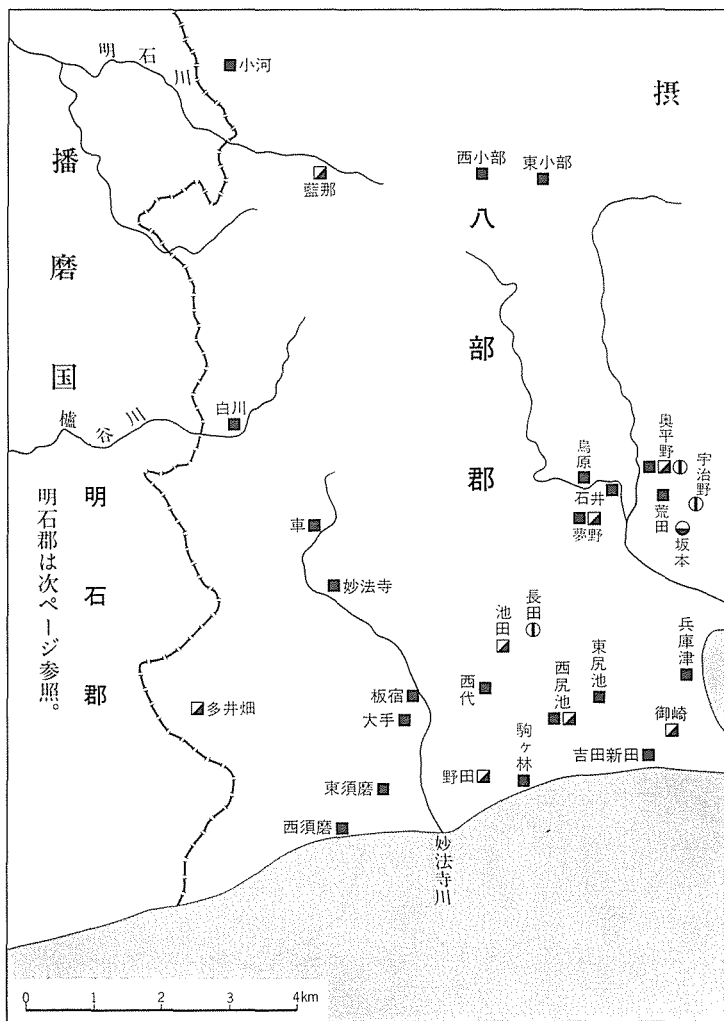
付図 1-(2)元和4年ころの所領配置 (有馬・美濃)



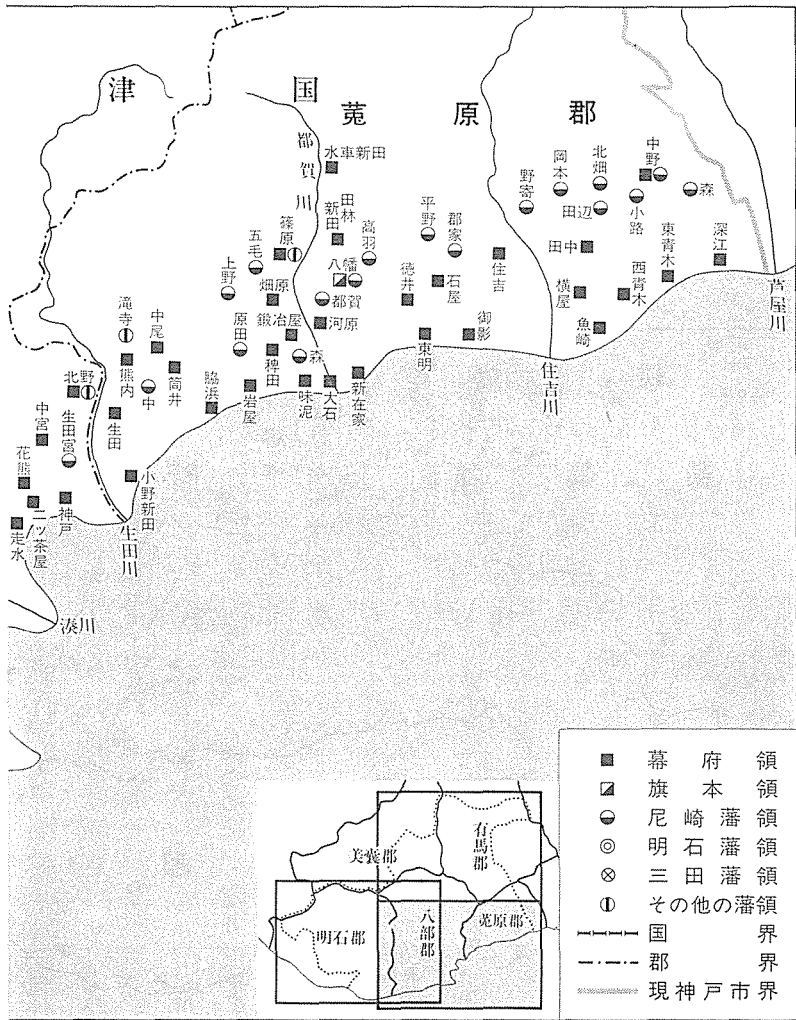


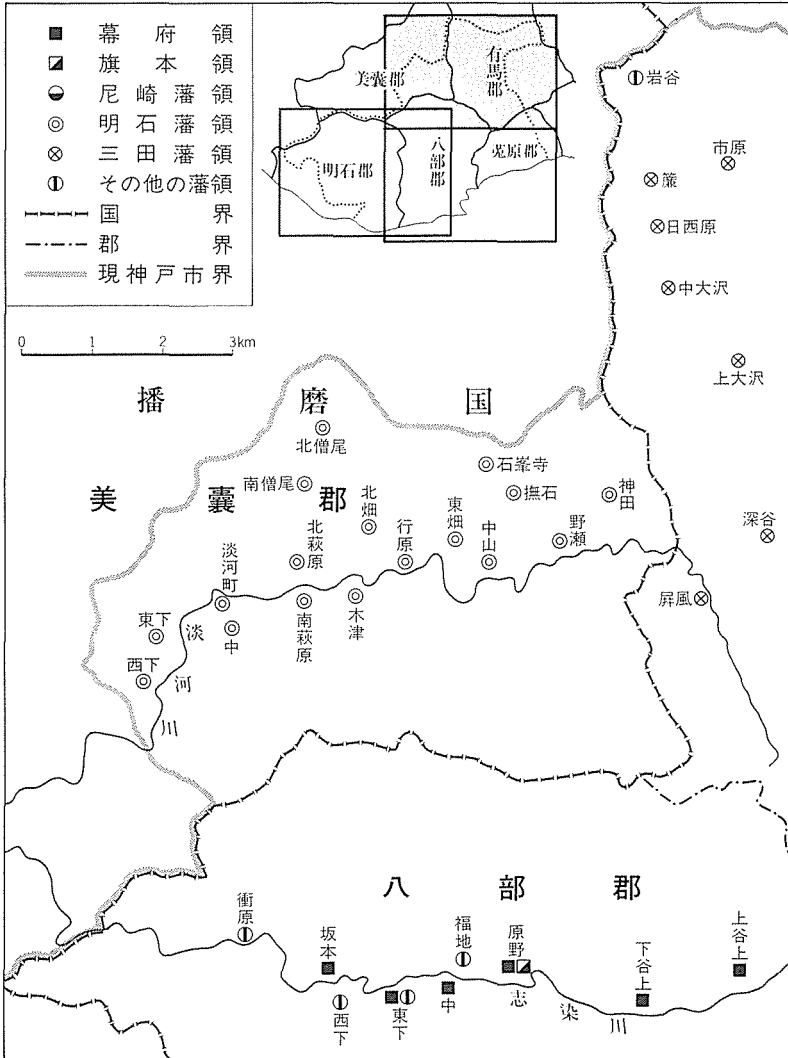




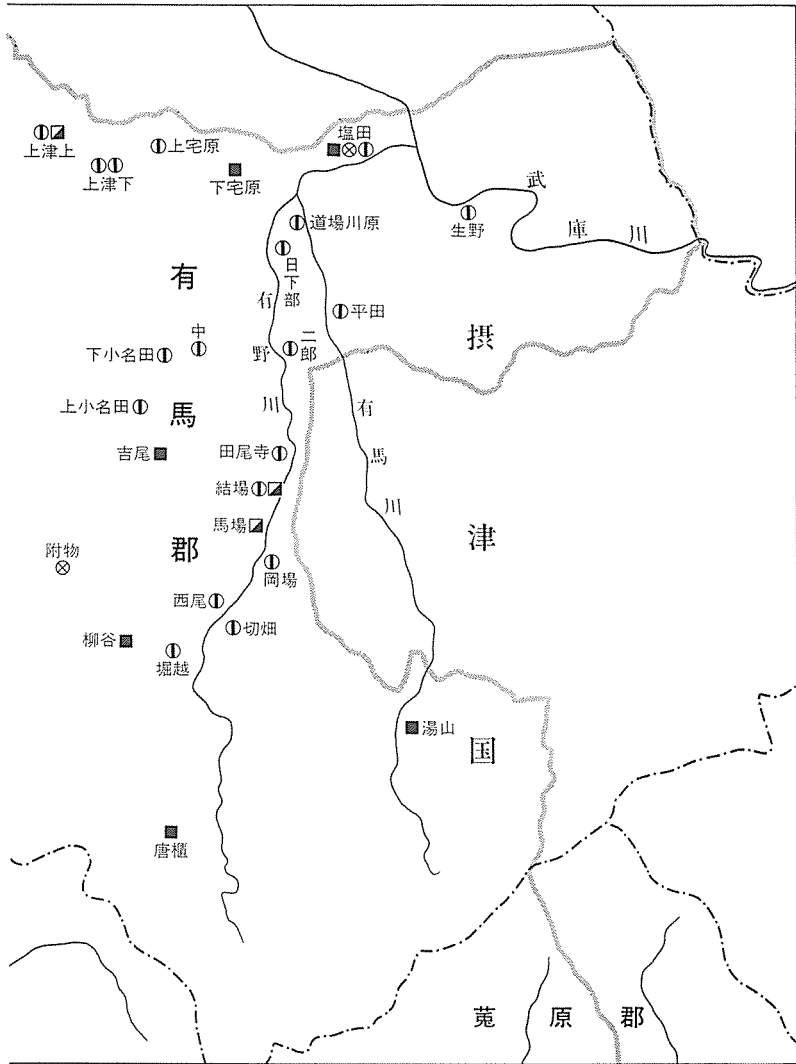


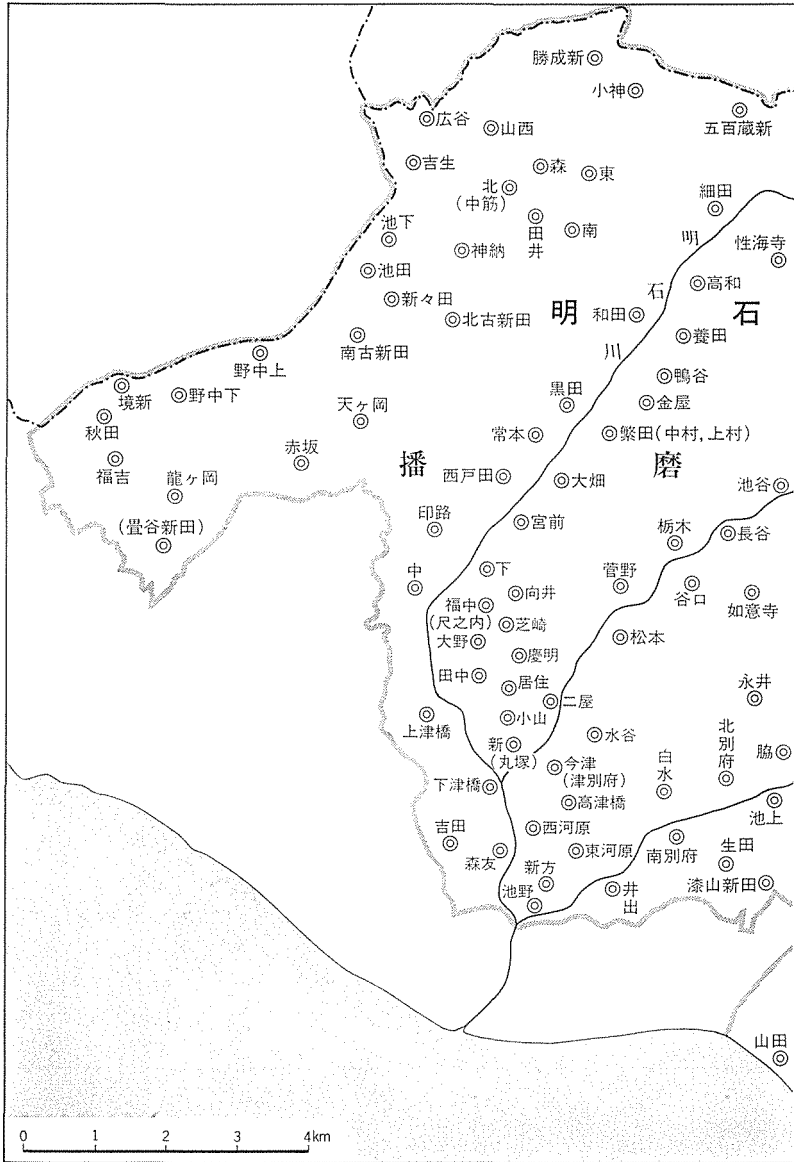
付図 2-(1) 明和6年上知後の所領配置 (八部・菟原)





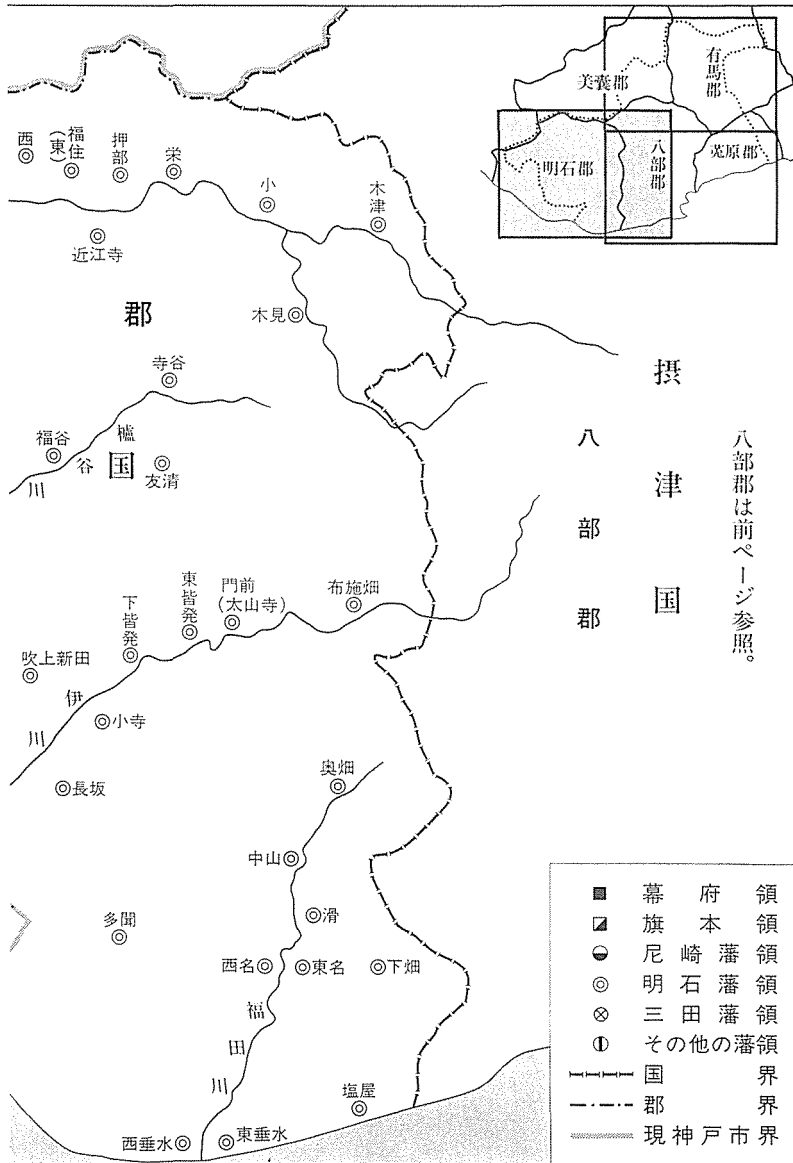
付図 2-(2) 明和 6 年上知後の所領配置 (有馬・美嚢)





付図 2-(3) 明和 6 年上知後の所領配置 (明石)





## 単位換算表

### 長 さ

丈=10尺=3.0303m  
 尺=10寸=30.303cm  
 寸=10分=3.0303cm  
 分=3.0303mm  
 間=6尺=1.8182m  
 町(丁)=60間=109.09m  
 里=36町=3.9273km

### 面 積

歩=坪=1平方間=3.3058m<sup>2</sup>  
 畝=30歩=99.174m<sup>2</sup>  
 反(段)=10畝=300歩=991.74m<sup>2</sup>  
 町=10反=3000歩=9917.4m<sup>2</sup>

### 体 積

石=10斗=180.39l  
 斗=10升=18.039l  
 升=10合=1.8039l  
 合=10勺=180.39cm<sup>3</sup>  
 石材 石=1尺×1尺×10尺=10才  
 木材 石=1尺×1尺×10尺

### 質 量

貫=1000匁=3.75kg  
 匁=10分=3.75g  
 分=10厘=0.375g  
 斤=160匁=600g

### 米 換 算

玄米 1石=0.15t  
 // 1升=1.5kg

### 貨 幣

金貨(計数貨幣)	銀貨(秤量貨幣)
両=4分(歩)	貫=1000匁
分4朱	匁=10分
銅貨 銭(計数貨幣)	分=10厘
貫=1000文	厘=10毛
文=銭1枚	

### 両替比

元禄13年幕府は、金1両=銀60匁=銭4貫文の基準を触れ出しているが、常に変動した。

付  
表

付表 1 摂津国所領配置の変遷

国	年代	幕府領	大名領		他国大名領 飛地
摂津国	元和3年以前	石合 137,496.744 (38.4%)	石合 116,126.938 (32.5%)		石合 50,533.036 (14.1%)
	正保期	石合 118,827.329 (31.6%)	石合 123,179.841 (32.7%)		石合 82,255.000 (21.9%)
有馬郡	元和3年以前		石合 福知山藩 29,144.952 (100%)		
	正保期	石合 7,657.300 (17.1%)		石合 三田藩 29,890.000 (66.9%)	石合 7,114.527 (16.0%)
菟原郡	元和3年以前	石合 9,208.091 (82.3%)			石合 471.596 (4.2%)
	正保期		石合 尼崎藩 9,208.476 (82.3%)		石合 471.596 (4.2%)
八部郡	元和3年以前	石合 14,701.559 (83.2%)			石合 2,377.609 (13.5%)
	正保期	石合 6,797.146 (37.4%)	石合 尼崎藩 9,643.229 (53.1%)		石合 340.360 (1.9%)

資料: 「摂津一国高御改帳」, 「摂州村々高書・写」

旗本御家人	その他	計
石合 30,488.599 (8.5%)	石合 23,271.141 (6.5%)	石合 357,936.458 (100%)
石合 40,239.542 (10.7%)	石合 11,671.017 (3.1%)	石合 376,172.729 (100%)
		石合 29,144.952 (100%)
		石合 44,661.827 (100%)
石合 1,494.965 (13.4%)	石合 10.000 (0.1%)	石合 11,184.652 (100%)
石合 1,504.497 (13.4%)	石合 10.000 (0.1%)	石合 11,194.569 (100%)
石合 512.551 (2.9%)	石合 78.613 (0.4%)	石合 17,670.332 (100%)
石合 1,372.617 (7.5%)	石合 16.423 (0.1%)	石合 18,169.775 (100%)

付表 2 元和 3 年 明石藩(小笠原忠真)領になった市域の村々

播磨 明石郡	現西区・垂水区の村々
美囊郡	現北区淡河町の村々
播磨国明石郡明石	
①元和 3～寛永 9	
小笠原忠真 右近大夫 譜代10万石(播磨国明石郡美囊郡加東郡加古郡)	
②寛永10～寛永16	
松平(万田)康直 丹波守 譜代 7 万石(播磨国明石郡美囊郡)	—— 光重 丹波守
③寛永16～慶安 2	
大久保忠職 加賀守 譜代 7 万石	
④慶安 2～延宝 7	
松平(藤井)忠国 山城守 譜代 7 万石	—— 信之 日向守 6 万 5 千石 —— 信重 分知 5 千石を受く。
⑤延宝 7～天和 2	
本多政利 出雲守 譜代 6 万石	
⑥天和 2～(明治)	
松平(越前)直明 若狭守 家門 6 万石	—— 直常 —— 直純 —— 直泰 —— 直之 —— 直周 —— 但馬守 左兵衛督 左兵衛督 左兵衛佐 左兵衛督
齊韶 左兵衛督	—— 齊宜 —— 慶憲 兵部大輔 兵部大輔

付表3 元和3年 尾崎藩(戸田氏鉄)領になった市域の村々

摂津	菟原郡	深江(470石)、東青木のうち(135)、西青木(186.29)、森(313.8)、中野のうち(78)、北畑(307.15)、小路(167.92)、田辺(91.43)、岡本(297.8)、田中(118.17)、野寄(132.51)、横屋(334.77)、魚崎(29.85)、住吉(493.632)、郡家のうち(73.679)、平野(100.9)、石屋(199.1)、御影のうち(252.912)、徳井(191.059)、篠原のうち(20.1)、都賀(230.2)、八幡のうち(161.623)、高羽(290.4)、大石(180.67)、五毛(71.14)、河原(307.765)、森(100.19)、上野(234)、畑原(155.966)、中(227.4)、鍛冶屋(88.53)、味泥(132.2)、原田(180.1)、岩屋のうち(219.522)、滝寺(55.776)、熊内(643.45)、生田(370)、中尾(223.58)
	八部郡	生田宮(40.03)、北野のうち(188.67)、中宮(35)、神戸(424.41)、二ツ茶屋(67.623)、走水(33.416)、宇治野(172)、坂本(291.814)、兵庫津(3638.8)、荒田のうち(324.83)、奥平野のうち(235.27)、長田(808.12)、東尻池(624.77)、西尻池のうち(227.86)、駒ケ林のうち(398.103)、板宿(484.07)、大手(304.636)、東須磨(891.16)、西須磨(436.827)

摂津国川辺郡尾崎

①元和3～寛永12

戸田氏鉄

左門

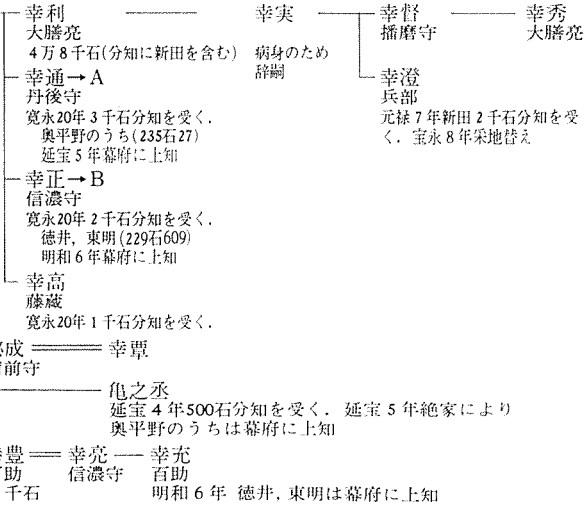
譜代5万石(摂津国川辺郡武庫郡菟原郡八部郡)

②寛永12～宝永8

青山幸成

大藏少輔

譜代5万石



③宝永8～(明治)

松平(桜井)忠喬

遠江守

譜代4万石

忠名

遠江守

忠告

遠江守

忠室

遠江守

忠誨

遠江守

忠栄

遠江守

忠興

遠江守

藩領は前記より次の村々を除く残り

菟原郡 篠原のうち、畑原、鍛冶屋、滝寺、熊内、中尾、河原のうち

八部郡 北野のうち、中宮、宇治野、荒田、長田、東尻池、西尻池のうち

駒ケ林のうち、板宿、大手、東須磨、西須磨

幕府に  
上知

付表 4 寛永 3 年 大坂城代阿部正次領になった市域の村々

---

摂津 有馬郡	下司(614 <sup>433</sup> ) (堀越・切畑・岡場), 中(1001.244) (西尾・馬場・結場・田尾寺), 二郎(690.86), 岩谷(150), 上津上(804), 上津下(719), 上宅原(1055.837), 下宅原(718.763), 道場川原(22), 目下部(926), 塩田のうち(412.493)
--------	--

---

武藏国埼玉郡岩槻

①寛永 3 ～慶安 1

阿部正次

備中守 正保 4 年死亡

譜代 8 万 6 千石(摂津国有馬郡川辺郡能勢郡豊島郡, 武藏国, 下総国, 上総国)

(注) 慶安元年上記村々は幕府に上知。

付表 5 慶安元年 大坂定番 保科正貞(飯野藩)領になった市域の村々

---

摂津 有馬郡	二郎(690 <sup>486</sup> ), 岩谷(150), 上津下のうち(719), 上宅原(1055.837), 道場川原(22), 塩田のうち(412.493)
--------	--

---

上総国周准郡飯野

①慶安 1 ～(明治)

正貞 —— 正景 —— 正賢 —— 正股 —— 正寿 —— 正富 —— 正率 ——

弾正忠 弾正忠 兵部少輔 主膳 弾正忠 越前守 弾正忠

譜代 1 万 7 千石 丹波国のうちで加増

(摂津国 有馬郡) 2 万石  
(下総国, 安房国)  
(近江国)

正徳 —— 正至 —— 正益



付表 6 寛永3年 三田藩(松平重直)領になった市域の村々

撰津 有馬郡	上大沢(495 <sup>石</sup> ), 中大沢(453), 日西原(388.56), 簾(149.44), 市原(154), 屏風(315), 深谷(472), 附物(694), 塩田のうち(273.92)
撰津国 <sup>有馬郡</sup> 三田	
①寛永3～寛永9	
松平(能見)重直 丹後守 譜代3万石(撰津国 <sup>有馬郡</sup> )	
②寛永10～(明治)	
九鬼久隆 —— 隆昌 == 隆律 == 副隆 == 隆久 == 隆抵 == 隆由 == 隆邑 —— 大和守 長門守 和泉守 長門守 大和守 丹後守 伊勢守 長門守 外様3万6千石 (撰津国 <sup>有馬郡</sup> , 丹波国 <sup>氷上郡</sup> )	
隆張 —— 隆国 —— 隆徳 —— 精隆 == 隆義 長門守 長門守 長門守 長門守	

付表 7 慶長19年 片桐貞隆(小泉藩)領になった市域の村々

撰津 菟原郡	御影のうち(212 <sup>石</sup> 87), 青木のうち(78.25)
八部郡	花熊(288.83), 奥平野のうち(28.1), 北野のうち(23.43)
寛永2年～貞享4年 与力給分加増のうち(貞享4年幕府に上知)	
撰津 菟原郡	中野のうち(160 <sup>石</sup> ) 与力 伊藤伊左衛門 篠原のうち(251.03) 与力 西川八右衛門
大和国 <sup>添下郡</sup> 小泉	
①慶長19～明和6	
片桐貞隆 —— 貞昌 —— 貞房 == 貞起 —— 貞音 —— 貞芳 主膳正 石見守 主膳正 石見守 主膳正 石見守 外様1万6490石 1万3490石 1万2400石 1万1100石	
A 貞晴 == 之晴 —— 為晴 —— 友晴 —— 友従 —— 祐賢…… A 寛永4～(明治)新丞 帯刀 帯刀 帯刀 新丞 3千石分知を受く 北野のうち(23石43) 奥平野のうち(28石1)	

付表8 元和3年 篠山藩(松平康重)領であった市域の村々

摂津	菟原郡	新在家(98 <sup>4</sup> 85), 稗田(81.626)
丹波国多紀郡篠山		
①慶長13～元和5		
松平(松井)康重 周防守 譜代5万石(丹波国多紀郡桑田郡, 摂津国島下郡菟原郡)		
②元和5～慶安2		
松平(藤井)信吉	——	忠国
伊豆守		山城守
譜代5万石		
③慶安2～寛延1		
松平(形原)康信	——典信——信利——信庸——信岑	
若狭守	駿河守 主膳正	紀伊守 紀伊守
譜代5万石		

(注) 信岑転封の寛延元年兩村は幕府に上知。

付表9 元和3年 蒔田広定(浅尾藩)領であった市域の村々

摂津	八部郡	池田(316 <sup>4</sup> 93), 多井畑(371.6)
備中国賀陽郡浅尾		
1 慶長期～(明治)		
蒔田広定	——	定正——定行=定矩—定英—定安=定静=定祥…広孝
權左		玄蕃頭 權佐 權佐 權佐 權佐 備中 權佐
1万石		8310石
(摂津国有馬郡 豊島郡河内国 山城国備中国)		多井畑
		長広——広正=広蕃—広尊—広敏=広祐=広堅—広憲=広朝…
		數馬助 數馬 數馬 數馬 圖書 式部
		3700石の分知を受く
		池田

(注) 寛永13年分知により定正は旗本となり, 文久3年1万石で広孝は再び大名に列する。

付表10 元和3年 杉原長房(豊岡藩)領であった市域の村々

摂津 八部郡	西代(454 <sup>丁</sup> 65), 西尻池のうち(545.4)
但馬国城崎郡豊岡	
①慶長期～正保2	
杉原長房 伯者守	重長 伯者守
天正14年西代, 西尻池を領す 豊岡に移封, 慶長5年本領安堵 2万5千石	

(注) 正保2年末期養子により減封, 西代, 西尻池のうちは幕府に上知。

付表11 元和3年 長谷川守知領であった市域の村

摂津 八部郡	野田(372 <sup>丁</sup> 099)
①慶長期～寛永9	
長谷川守知 式部少輔 1万石	正尚 縫殿助 7千石 守勝 三左衛門 3110石 摂津4郡・備中1郡のうちで分知を受く。
②寛永9～(明治) [分知後]	
長谷川守勝	勝知 = 勝清 = 勝富 = 勝孚…… 周防守 丹後守

付表12 元和3年 石河貞政領であった市域の村

摂津 菟原郡	八幡のうち(200 <sup>丁</sup> 29)
①慶長期～(明治)	
石河貞政 伊豆守 5020石	貞利 = 貞代 = 貞固 = 貞貴 = 貞義 = 貞通…… 500石を弟に分知 主税 右膳 壱岐守 4520石 (摂津国菟原郡 大和国添下郡 近江国蒲生郡)

付表13 元和3年 船越永景領であった市域の村々

摂津	菟原郡	脇浜(516 <sup>正</sup> 145)								
	八部郡	鳥原のうち(12)								
①慶長4～明和6										
船越景直	——	永景	====	為景	==	景次	==	景忠	====	景順
	五郎右衛門	三郎四郎		左門		五郎右衛門		式部		
	慶長4年4640石	慶長16年継承		5570石						明和6年脇浜,鳥原
	慶長6年1500石加増									のうちは幕府に上知

付表14 元和3年 畠山政信領であった市域の村々

摂津	八部郡	奥平野のうち(233 <sup>正</sup> 65), 御崎(95.251)										
①元和期～(明治)												
畠山貞政	——	政信	——	基玄	====	基祐	==	国祐	——	政如	==	国倚……
八部郡小平		二郎四郎		民部大輔		奥高家						
野庄に住す		300石		延宝7(～元禄2)加増で5千石								
				夢野のうち(303石571)を加う。								

付表15 元和3年 青木可直領であった市域の村

摂津	菟原郡	筒井(367 <sup>正</sup> 5)								
①元和期～明和6										
青木可直	——	直澄	====	直正	——	直有	——	直暘	——	直美
	次郎右衛門	二郎右衛門				縫殿頭				九十郎
	5千石									明和6年筒井
										は幕府に上知

付表16 元和3年 佐久間実勝領であった市域の村

---

摂津 八部郡 駒ケ林のうち(200<sup>石</sup>55)

---

① ～寛永19

佐久間実勝

河内守

8千石

寛永19年絶家、駒ケ林のうちは幕府に上知

---

付表17 元和3年 伊藤猪左衛門領であった市域の村

---

摂津 菟原郡 中野のうち(160<sup>石</sup>)

---

① 元和期～貞享4

(注) 寛永2年 小泉藩に与力として預けられる。

付表18 元和3年 西川八右衛門領であった市域の村

---

摂津 菟原郡 篠原のうち(251<sup>石</sup>03)

---

① 元和期～貞享4

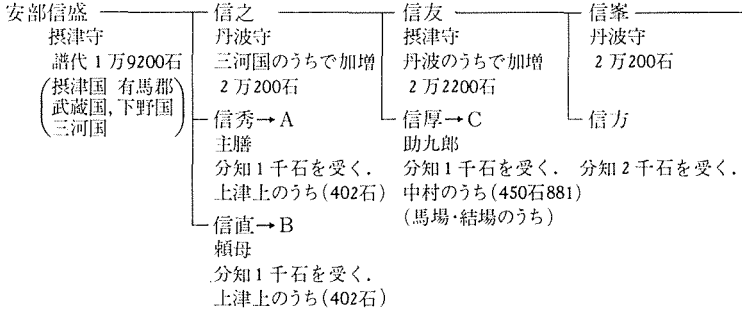
(注) 寛永2年 小泉藩に与力として預けられる。

付表19 慶安2年 大坂定番 阿部信盛(岡部藩)領になった市域の村々

摂津 有馬郡 下司(614<sup>+</sup>433), 中(1001.244), 上津上(804)

武蔵国榛沢郡岡部

①慶安2～(明治)



信賢 — 信平 — 信允 — 信亨 — 信操 — 信任 — 信古 — 信宝 — 信発  
 摂津守 摂津守 摂津守 摂津守 摂津守 丹波守 摂津守 摂津守 摂津守

A 寛文2～(明治)

信秀 — 信重 — 信係 — 信久 — 信要 — 昌信……  
 主膳 久太郎 主膳 伊織 伊織 熊五郎  
 上津上のうち

B 寛文2～宝永5

信直 — 信典 — 信昌  
 頼母 采女  
 上津上のうち 宝永5年死亡絶家; 上津上のうちは幕府に上知

C 延宝6～(明治)

信厚 — 信行 — 信方 — 信尹 — 信庸……  
 助九郎 弥右衛門 助九郎 助九郎 右京  
 馬場・結場のうち

付表20 正徳2年 古河藩(本多忠良)領になった市域の村々

---

摂津 菟原郡 篠原のうち(20<sup>五</sup>2), 河原のうち(307.765), 滝寺(55.776),  
熊内(643.45)  
八部郡 長田(808.12), 宇治野(172)  
(山田地区) 福地(180.893), 西下(149.063), 東下のうち(140.75),  
衝原(190.579)

---

下総国葛飾郡古河

---

① 正徳2～宝暦9

本多忠良 —— 忠敏  
中務大輔 中務大輔  
譜代5万石(摂津国菟原郡八部郡, 下総国, 武蔵国, 下野国)

② 宝暦9～宝暦12

松平(松井)康福  
周防守  
譜代5万石

③ 宝暦12～(明治)

土井利里 == 利見 == 利厚(利和) == 利位 ==  
大炊頭 美濃守 大炊頭  
譜代7万石 1万石加増  
ほかに播磨国 美作国 合計8万石  
利亨 == 利則 — 利与

---

付表21 延享3年 田安徳川家領になった市域の村々

---

摂津 有馬郡 日下部(733<sup>五</sup>482), 平田(393.062), 生野(328.093),  
上小名田(638.708), 下小名田(427.442), 中(384.757),  
上津上のうち(403.511), 上津下のうち(299.918)

---

① 延享3～(明治)

宗武 — 治察 == 斉匡 == 斉荘 == 慶頼 — 寿千代 == 亀之助  
権中納言 権大納言 権中納言  
三卿10万石(摂津国有馬郡川辺郡ほか, 和泉国, 播磨国, 甲斐国, 武蔵国, 下総国)

---

付表22 寛文5年 宮崎政泰領になった市域の村

---

摂津 八部郡 藍那(552<sup>+</sup>78)

---

① 寛文5～(明治)

政泰(重成)	————	重清	————	成久	====	重教	——	成尹	====
七郎右衛門		七郎右衛門		七郎右衛門		七郎右衛門		七郎右衛門	
伏見奉行のち京都町奉行		上野2郡下野1郡で加増		弟へ分知					
1500石		2500石		2千石					
幹忠	====	成庸	-----						
七郎右衛門									

---

(注) 他に摂津国島下郡, 下野国芳賀郡にも領地がある。

付表23 元禄13年 鈴木重視領になった市域の村

---

摂津 八部郡 西尻池のうち(480<sup>+</sup>975)

---

① 元禄13～(明治)

重視	——	重田	——	旧正	——	正視	====	正重	——	正孝	——	正長	-----
兵九郎		兵九郎		兵九郎		長左衛門		兵九郎		兵九郎			
駿府町奉行													
1200石													

---

付表24 明和6年伏屋為将領になった市域の村

---

摂津 八部郡 原野のうち(406<sup>+</sup>105)

---

① 明和6～(明治)

伏屋為将	————	為秋	-----
新助			
1350石		采地替え	

---



付表 25 文化3年(1806)藤田家の農産物販売状況

日付	品目	銀額	販売先
月日		匁	
2. 12	米1俵	30.5	村 藤兵衛
2. 17	米1俵	30.5	村 安兵衛
3. 15	米1俵	31	村 吉兵衛
3. 25	米1俵	30	村 伝兵衛
〃	麦3斗	14.1	〃
3. 29	綿11斤8合	20	村 長左衛門取次
4. 3	麦2斗	9.4	村 孫左衛門
4. 4	綿22斤5合	38.85	村 兵右衛門
4. 5	米	65	村 おきし
6. 1	綿3斤	5.5	村 兵右衛門
〃	綿10斤	18	〃
6. 5	綿3斤	5.5	村 茂八郎
6. 9	綿	54.5	村 藤兵衛
6. 28	手作2俵	71.2	米屋九兵衛
〃	出米8俵	264	〃
7. 10	米1俵	31.5	村 兵太郎
7. 11	米1俵	32.5	備前屋善兵衛
7. 12	米1俵	32.3	村 久右衛門
〃	米2斗1升	14.1	本□屋磯次郎
〃	米2斗	13	村 孫左衛門
7. 13	米1斗	6.7	村 兵左衛門
〃	もふか木綿	16.7	村 長五郎
〃	餅米2升	4.76	村 熊左衛門
〃	米1俵	32	村 吉兵衛
8. 9	餅2斗	12	中村屋義兵衛
9. 14	大豆1斗2升	6.6	村 喜平次
12. 2	米6斗	34.25	村 宇兵衛取次
12. 14	手形4俵	131	吉田屋嘉助
12. 20	米10石3斗8升	602.4	下村茂平次
12. 23	干粕	12.72	村 長左衛門
〃	綿8貫300匁	40.67	〃 取次
12. 24	綿10斤	15	八右衛門
12. 27	綿	7.5	不詳
12. 29	春以来売竹	147	

資料:「藤田家文書」

付表 26 天明～寛政期における地域別江戸入津樽

地 域	天明 4 年(1784)		天明 5 年(1785)		天明 6 年(1786)		天明 8 年(1788)	
今 津	36,296	5.4	41,634	5.4	36,745	4.7	25,396	4.2
灘 目	269,182	39.8	318,903	41.1	321,126	41.1	178,498	29.6
小 計	305,478	45.2	360,537	46.5	357,871	45.8	203,894	33.8
西 宮	68,249	10.1	74,154	9.6	58,635	7.5	79,988	13.3
伊 丹	85,153	12.6	112,660	14.5	119,562	15.3	63,082	10.5
池 田	15,905	2.4	18,219	2.3	20,965	2.7	23,824	3.9
大 坂	44,904	6.7	33,903	4.4	32,232	4.1	21,673	3.6
伝 法	27,965	4.1	20,748	2.7	24,823	3.2	15,252	2.5
尼 崎	8,491	1.3	6,682	0.9	6,373	0.8	12,065	2.0
和泉(堺)	16,289	2.4	11,797	1.5	16,975	2.2	6,385	1.1
小 計	266,956	39.6	278,163	35.9	279,565	35.8	222,269	36.9
河 内	240	0.0	260	0.0	893	0.1	1,669	0.3
播 磨	66	0.0	850	0.1	1,848	0.2	6,024	1.0
山 城	1,000	0.1	1,984	0.3	2,920	0.4	344	0.1
尾 張	7,152	1.1	50,673	6.6	57,076	7.3	80,774	13.4
三 河	53,121	7.9	55,927	7.2	57,473	7.4	65,352	10.8
美 濃	26,581	3.9	26,232	3.4	23,087	3.0	21,282	3.5
伊 勢	132	0.0	71	0.0	62	0.0	744	0.1
紀 伊	10	0.0			10	0.0	50	0.0
丹 波							458	0.1
小 計	88,302	13.0	135,997	17.6	143,369	18.4	176,697	29.3
合 計	675,668	100.0	774,697	100.0	780,805	100.0	602,860	100.0
酒造制限令							天明 6 年前迄造 米高の1/3造り	

(注) (1) 北在は西宮に、兵庫は灘皿に加算。(2) 江戸積出期限(暦年制)についてはこれを省略。(3) 天明  
む。

資料: 「白嘉納家文書」, 「四井家文書」

数の変遷

寛政元年(1789)		寛政2年(1790)	
樽	%	樽	%
26,254	4.2	34,024	4.7
181,303	29.4	202,801	28.1
207,557	33.6	236,825	32.8
85,466	13.8	78,738	10.9
68,554	11.1	77,551	10.8
24,547	4.0	37,136	5.2
16,233	2.6	15,857	2.2
20,178	3.3	15,016	2.1
13,402	2.2	18,777	2.6
6,142	1.0	5,864	0.8
234,522	38.0	248,939	34.6
2,105	0.3	1,758	0.2
6,052	1.0	6,777	0.9
405	0.1	761	0.1
88,031	14.3	118,557	16.5
45,911	7.4	67,005	9.3
30,219	4.9	36,651	5.1
533	0.1	1,606	0.2
1,770	0.3	1,850	0.3
175,026	28.4	234,965	32.6
617,105	100.0	720,729	100.0
同1/3造り		同1/3造り	

4年の合計に郷名不明分14,932樽(2.2%)を含

付表 27 享和～文政期における

地 域	享和3年(1803)		指数	文化2年(1805)		指数	文化14年(1817)	
	樽	%		樽	%		樽	%
今津	45,734	4.8	110	51,345	5.3	123	23,507	2.3
灘目	403,287	42.1	126	417,541	43.4	131	517,149	51.0
小計	449,021	46.9	125	468,886	48.7	130	540,656	53.3
西宮	104,371	10.9	141	102,243	10.6	138	69,028	6.8
伊丹	182,148	19.0	162	220,224	22.9	195	182,804	18.0
池田	43,182	4.5	237	34,824	3.6	191	33,711	3.3
大坂	25,291	2.6	75	22,421	2.3	66	41,932	4.1
伝法	6,091	0.6	29	5,046	0.5	24	12,779	1.3
尼崎	12,400	1.3	186	10,486	1.1	157	2,758	0.3
和泉(堺)	9,553	1.0	81	3,267	0.3	28	9,919	1.0
北在	25,023	2.6		15,113	1.6		23,813	2.3
兵庫								
小計	408,059	42.5	147	413,624	42.9	149	376,744	37.1
河内	410	0.0						
播磨	750	0.1		230	0.0		825	0.1
山城	140	0.0		80	0.0			
尾張	55,137	5.8		52,386	5.5		33,674	3.3
三河	36,902	3.9					57,075	5.6
美濃	6,621	0.7		4,487	0.5		3,596	0.4
伊勢	679	0.1		207	0.0		2,149	0.2
紀伊	216	0.0		23,072	2.4			
丹波							248	0.0
小計	100,855	10.6	74	80,462	8.4	59	97,567	9.6
合計	957,935	100.0	124	962,972	100.0	124	1,014,967	100.0

(注) 指数は天明5年=100。享和3年、文化2年、文化14年、文政4年の兵庫は灘目に加算。

資料：享和3年・文化2年・文政4年は『灘酒沿革誌』、文化14年は「白嘉納家文書」、文政

地域別江戸入津樽数の変遷

指数	文政4年(1821)		指数	文政11年(1828)		指数
56	38,984 <sup>樽</sup>	3.2%	94	48,349 <sup>樽</sup>	4.4%	108
162	681,103	55.6	214	613,466	55.1	192
150	720,087	58.8	200	661,815	59.5	184
93	80,601	6.6	109	86,380	7.8	116
162	194,551	15.9	173	196,508	17.7	174
185	33,936	2.8	186	29,866	2.7	164
124	41,950	3.4	124	58,626	5.3	173
62	38,950	3.2	188	50,022	4.5	241
41	1,086	0.1	16	2,820	0.2	42
84	3,079	0.2	26	340	0.0	3
	21,834	1.8		15,840	1.4	
				10,458	0.9	
135	415,987	34.0	150	450,860	40.5	162
	100	0.0				
	130	0.0				
	55,998	4.6				
	24,507	2.0				
	6,326	0.5				
	1,348	0.1				
72	88,409	7.2	65			
131	1,224,483	100.0	158	1,112,675	100.0	144

11年は「泉谷家文書」

付表 28 伊丹酒と灘酒の仕込方法の変遷

区 分	項 目		配	初 添	中 添	留 添	合 計
伊丹酒 寛政11年 (1799)	白米高	蒸 米	石 0.500	石 0.865	石 1.725	石 2.850	石 5.940
		麴	0.170	0.265	0.525	1.600	2.560
	水		0.480	0.720	1.280	1.920	4.400
	合 計		1.150	1.850	3.530	6.370	12.900
灘 酒 嘉永元年 (1848)	白米高	蒸 米	0.600	0.900	1.800	3.600	6.900
		麴	0.200	0.300	0.560	1.040	2.100
	水		0.720	0.900	2.380	5.000	9.000
	合 計		1.520	2.100	4.740	9.640	18.000
伊丹酒	麴割合		0.34	0.31	0.30	0.56	0.43
	汲水率		0.72	0.64	0.57	0.43	0.52
灘 酒	麴割合		0.33	0.33	0.31	0.29	0.30
	汲水率		0.90	0.75	1.01	1.08	1.00

(注) 麴割合:  $\frac{\text{麴}}{\text{蒸米}}$  汲水率:  $\frac{\text{水}}{\text{蒸米}+\text{麴}}$

資料: 伊丹酒は『日本山海名産図会』, 灘酒は『本嘉納商店店史』

付表 30 天明6年(1786)嘉納治兵衛の酒造米購入状況

酒 造 米 の 種 類				酒 造 米 買 入 地		
種 類	数 量	比 率		買 入 地	数 量	比 率
撰 津 米	石 145.9	7.8%	大 坂 兵 庫 明 石 尼 崎 西 宮 御 影	石 975.2	51.8%	
播 磨 米	1,148.0	61.0		620.9	33.0	
備 前 米	486.0	25.8		95.7	5.1	
淡 路 米	55.4	2.9		104.0	5.5	
北 国 米	46.7	2.5		16.4	0.9	
				69.8	3.7	
合 計	1,882.0	100.0		合 計	1,882.0	100.0

資料: 『御影酒造組合文書』

付表 29 酒造仕込みの生産費項目

年 代		寛政8年 (1796)		文化11年 (1814)		安政5年 (1858)	
		造 石 高	414石 (41甃)	1,282石 (128.5甃)	743石 (62.5甃)		
項 目	項 目	価格(銀)	比 率	価格(銀)	比 率	価格(銀)	比 率
		貫 匁	%	貫 匁	%	貫 匁	%
酒 造 米		31.600	65.3	79.378	66.3	94.660	62.5
	薪	1.231	2.6	1.888	1.6	3.282	2.2
酒 樽		5.950	12.3	15.783	13.2	17.138	11.3
	縄 筵	468	1.0	1.192	1.0	2.221	1.5
宮 水						1.892	1.2
小 計		39.249	81.2	98.241	82.1	119.193	78.7
踏 賃		745	1.5	2.265	1.9	5.213	3.4
	冬 分 人	1.112	2.3	2.328	1.9	2.221	1.5
夏 分 日 雇		509	1.1	490	0.4	447	0.3
飯 米		938	1.9	2.481	2.1	3.450	2.3
	菜 物	489	1.0	496	0.4	553	0.4
小 計		3.793	7.8	8.060	6.7	11.884	7.9
運 賃		2.415	5.0	8.343	7.0	9.183	6.1
	藏 敷 賃	1.500	3.1	3.000	2.5	2.500	1.6
諸 入 用		1.425	2.9	2.032	1.7	8.051	5.3
小 計		5.340	11.0	13.375	11.2	19.734	13.0
貢 租						141	0.1
	酒 造 株 冥 加 割					452	0.3
小 計						593	0.4
合 計		48.382	100.0	119.676	100.0	151.404	100.0

資料:「本嘉納家文書」

付表 31 幕末期における摂泉十二

酒造地	文政4年(1821)			天保14年(1843)		
	樽数	比率	指数	樽数	比率	指数
今津	樽 36,396	% 3.5	100	樽 66,633	% 7.6	183
灘目	616,352	59.6	100	467,980	53.3	76
西宮	78,590	7.6	100	70,857	8.1	90
伊丹	174,140	16.8	100	148,135	16.9	85
摂泉12郷	1,033,746	100.0	100	878,774	100.0	85

資料:「森本家文書」

付表 32 幕末期における灘目四組の江戸

地域名	文政4年(1821)			天保元年(1830)			
	樽数	比率	指数	樽数	比率	指数	
上灘	東組	樽 98,049	% 17.3	100	樽 128,580	% 22.7	131
	中組	208,742	36.8	100	201,372	35.6	96
	西組	182,595	32.2	100	159,688	28.3	87
	下灘	77,828	13.7	100	75,526	13.4	97
灘目合計	567,214	100.0	100	565,166	100.0	99.6	

(注) 上灘東組は青木・魚崎・住吉の3カ村, 中組は御影・石屋・東明・八幡の4カ村, 西組は新在家・大資料:「白嘉納家文書」,「森本家文書」,「魚崎酒造組合文書」

付表 33 幕末期における上灘三組の江戸

地域	文政4年(1821)			天保元年(1830)		
	樽数	比率	指数	樽数	比率	指数
東組一魚崎村	樽 47,635	% 8.4	100	樽 67,450	% 11.9	142
中組一御影村	100,710	17.8	100	90,909	16.1	90
西組一大石村	132,697	23.4	100	116,843	20.7	88
灘目合計	567,214	100.0	100	565,166	100.0	99.6

資料:「白嘉納家文書」,「森本家文書」,「魚崎酒造組合文書」



郷の江戸入津樽数の変遷

嘉永6年(1853)			安政3年(1856)			慶応2年(1866)		
樽数	比率	指数	樽数	比率	指数	樽数	比率	指数
樽 79,299	% 11.8	218	樽 118,785	% 12.6	326	樽 107,284	% 15.7	295
364,360	54.3	59	523,329	55.3	85	360,850	53.0	59
87,325	13.0	111	102,875	10.9	131	113,112	16.6	144
60,695	9.0	35	80,507	8.5	46	37,533	5.5	22
670,963	100.0	65	945,963	100.0	92	681,327	100.0	66

入津樽数の変遷

安政3年(1856)			文久3年(1863)		
樽数	比率	指数	樽数	比率	指数
樽 123,587	% 25.6	126	樽 122,699		125
203,520	42.1	97	156,874		75
103,755	21.5	57	85,651		47
52,467	10.8	67	不詳		
483,329	100.0	85.2			

石の2カ村，下灘は脇浜・神戸・二ツ茶屋の3カ村。

入津樽数の変遷

安政3年(1856)			文久3年(1863)		
樽数	比率	指数	樽数	比率	指数
樽 52,290	% 10.8	110	樽 58,362		123
94,384	19.5	94	70,871		70
64,185	13.3	48	58,051		44
483,329	100.0	85.2	不詳		

---

新修 神戸市史 歴史編Ⅲ 近世

平成4年4月1日発行

編 集 新修神戸市史編集委員会

発 行 神 戸 市

印刷・製本 河北印刷株式会社

---